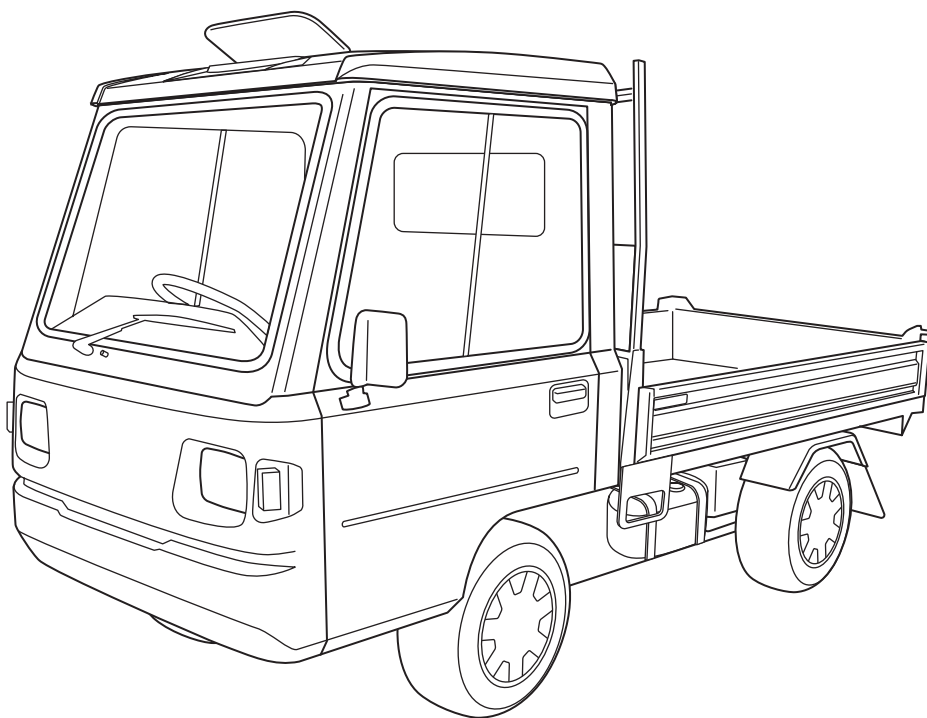


小型特殊自動車

J152S・J153S

取扱説明書



▲ 警告

この説明書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

この説明書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも調べられるように大切に保管してください。

3726 6101 003

株式会社 筑水キャニコム

〒839-1396 福岡県うきは市吉井町福益90-1

TEL (0943)75-2195 (代) FAX (0943)75-4396

株式会社 筑水キャニコム

<http://www.canycom.co.jp>

■本社営業本部	☎0943(75)2195	FAX(75)4396
■東京国際センター	☎03(3552)6255	FAX(3552)6288
■東北センター	☎022(281)1255	FAX(281)3141
■関東センター	☎0270(63)8011	FAX(63)8012
■関西センター	☎0790(42)6031	FAX(42)6035
■中・四国センター	☎0824(34)5996	FAX(34)5997
■九州センター	☎0943(76)2583	FAX(75)5126

連絡先控え（販売店名）

ユーザーの皆様へ

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しい取り扱いをしてください。

警告

本製品には、潜在する危険があることを知らなければなりません。したがって、本製品の運転および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

警告

本製品を改造して使用しないでください。また、本体の安全カバー等を取外して運転しないでください。重大な事故の原因となります。

注 記

本製品は市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。（交付申請の方法については、本書第11章の「小型特殊自動車登録申請の手引き」を参照してください）
なお、公道運転時には、小型特殊自動車を運転することができる免許（小型特殊免許、普通免許、自動二輪免許など）が必要です。運転時は、必ず免許証を携帯してください。

目 次

1.	はじめに	1
1.1	本書の目的について	1
1.2	本書の構成について	1
1.3	本書の警告用語について	2
1.4	本製品に貼付してある警告ラベルについて	3
2.	保証とアフターサービスについて	4
3.	安全運転・作業のための心得	5
4.	各部の名称とはたらき	9
5.	製品仕様	12
5.1	本製品の仕様	12
5.2	工具袋明細	13
6.	運転と操作	14
6.1	運転前の準備	14
6.1.1	燃料の給油	14
6.1.2	燃料の供給	14
6.1.3	エンジンオイル量の点検と補給	15
6.2	始動のしかた	16
6.3	運転のしかた	18
6.4	停止のしかた	20

6.5	ダンプ操作	22
6.6	2WD・4WD切替え操作	23
6.7	シートスライド・前倒し操作.....	24
6.8	開閉ルーフの操作	25
6.9	ヒーターの操作	26
6.9.1	ヒータースイッチの操作	26
6.9.2	ヒーター吹き出し口	27
6.10	クーラーの操作 (J153Sのみ)	28
6.10.1	クーラースイッチの操作	28
6.10.2	クーラー吹き出し口の調整	28

7. 保守 (お手入れ) 29

7.1	定期点検表	29
7.2	給油、給水、給脂、注油一覧表	34
7.3	消耗品 (交換部品) 一覧表	35
7.4	給油	36
7.4.1	エンジンオイル	36
7.4.2	トランスミッションオイル	37
7.4.3	ディファレンシャル (デフ) オイル、ナックルオイル	38
7.4.4	パワーパッケージオイル (ダンプ&パワステ)	39
7.5	給脂	40
7.6	給水	41
7.6.1	バッテリー液	41
7.6.2	ウィンドウォッシャ液	42
7.7	清掃	43
7.7.1	エアクリーナエレメント	43
7.7.2	点火プラグ	44
7.7.3	フューエルコック (フューエルフィルタ)	45
7.8	調整	46
7.8.1	コンプレッサ・オルタネータVベルト (J153S)	46
7.8.2	Vベルト	46
7.8.3	クラッチ	47
7.8.4	ブレーキ	48
7.8.5	タイヤの空気圧	49

7.9	交換	49
7.9.1	メインヒューズ	49
7.9.2	スローブローヒューズ	49
7.9.3	クーラーヒューズ (J153Sのみ)	49
7.10	使用後のお手入れ	50

8. 格納 (長期保管) 51

8.1	本機 (車両)	51
8.2	バッテリー	51
8.3	エンジン	52
8.3.1	フューエルコック	52
8.3.2	エアクリーナエレメントの清掃	52
8.3.3	エンジンオイルの交換	52

9. 不具合発生時の処置 53

9.1	不具合診断表	53
-----	--------	----

10. 本機の移送および本機での移送 57

10.1	本機の移送	57
10.2	本機での移送	57

11. 小型特殊自動車登録申請の手引き 58

<保証書>

本書の巻末に添付

※ 本機の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

<付 録>

「エンジン取扱説明書」(工具袋に同封)

※ 本書と併せて必ずお読みください。

1. はじめに

1.1 本書の目的について

本書の目的は、本製品について、正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために詳しい情報を提供することです。

また、本書は、はじめてこの製品を使用される方を対象として制作しています。

1.2 本書の構成について

本書では以下の章に分けて情報を記載しています。

1. はじめに

この章では、本書の目的、構成および本書で使用している警告用語について説明しています。また、本製品に貼付してある警告ラベルについても記載しています。

2. 保証とアフターサービスについて

この章では、本製品の保証およびアフターサービスに関する事項を記載しています。

3. 安全運転・作業のための心得

この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。

4. 各部の名称とはたらき

この章では、各部の名称とはたらきについて説明しています。

5. 製品仕様

この章では、本製品の仕様について記載しています。また、工具袋の明細についても記載しています。

6. 運転と操作

この章では、運転前の準備、運転手順および操作方法について説明しています。

7. 保守（お手入れ）

この章では、定期点検、給油、給脂、注油、給水、清掃、調整および使用後のお手入れに関する情報を記載しています。

8. 格納（長期保管）

この章では、格納（長期保管）に関する情報を記載しています。

9. 不具合発生時の処置

この章では、不具合が発生した場合の処置について記載しています。

10. 本機の移送および本機での移送


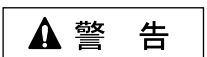
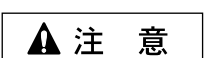
この章では、本機を移送する場合の方法と注意事項について説明しています。また、本機に他の機械を積んで移送する場合の注意事項についても説明しています。

11. 小型特殊自動車登録申請の手引き

この章では、小型特殊自動車登録申請に関する情報を記載しています。

1.3 本書の警告用語について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を次の4段階に分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警告用語	意 味
 危 険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
 警 告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
 注 意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
注 記	とくに注意を促したり、強調したい情報について使用されます。

1.4 本製品に貼付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが貼付してあります。はがれたり、見えにくくなった場合には、ラベル右下の部品番号にて販売店へ注文し、新たに貼付してください。

警告

高温部に触れると火傷します。高温部付近で作業する時は、十分冷えた後に行ってください。

3655 6015 000

警告

安全カバーを取外して運転したり、回転物に手を近づけると、手を巻き込まれけがをするおそれがありますので、絶対におやめください。

3421 6036 000

警告

**最大作業能力
660kg**

本機の最大作業能力は660kgです。最大作業能力以上は積載しないでください。転倒の恐れがあります。

3718 6023 000

<p>危険</p> <p>坂道でギヤ抜けすると、死傷するおそれがありますので、確実にギヤを入れて下さい。</p>	<p>危険</p> <p>荷台が落下すると、死傷するおそれがありますので、必ず荷台落下防止棒で荷台を支えてください。</p>
<p>危険</p> <p>積み荷が片寄ると、車体が転倒し、死傷するおそれがありますので、必ず積み荷は均等に載せ、ロープ等で固定してください。</p>	<p>危険</p> <p>傾斜地の走行では、急停止やわずかな段差でも車体の転倒が起こり、死傷するおそれがありますので、慎重に走行してください。</p>
<p>警告</p> <p>取扱説明書を読んで、理解するまでは、本機の運転および保守・点検を行わないでください。</p>	<p>警告</p> <p>公道乗車定員 2名</p> <p>本機の公道乗車定員は2名です。定員を超える乗車は大変危険ですので、絶対にししないでください。</p>

3718 6019 000

2

保証とアフターサービスについて

2. 保証とアフターサービスについて

保証について

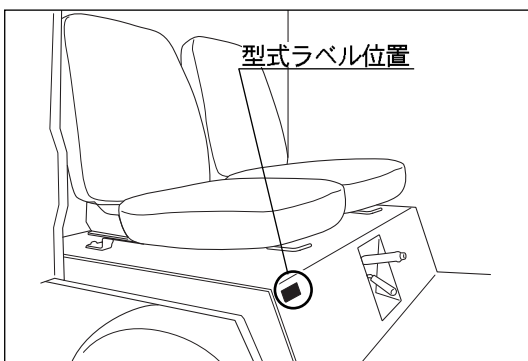
当社は本製品について、「保証書」の内容に基づいて保証をいたします。保証書の発行にはお客様登録が必要です。製品に同封のお客様登録カードをご記入の上ご送付ください。登録完了までの保証内容については本書巻末に貼付の仮保証書を参照してください。

アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターにお気軽にご相談ください。

その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。(搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の第5章「製品仕様」を参照してください。☞12ページ)

<型式ラベル位置>



<型式ラベル>

J152S



← 商品型式

← 製造番号

J153S



← 商品型式

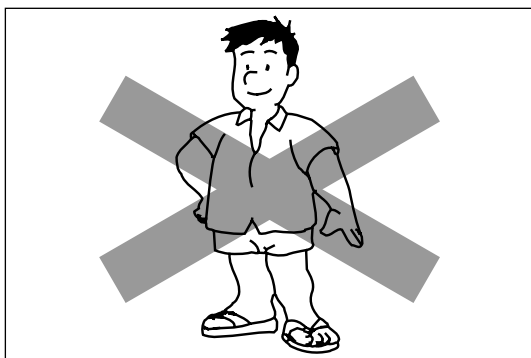
← 製造番号

補修用部品の供給年限（期間）について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後7年とします。

3. 安全運転・作業のための心得

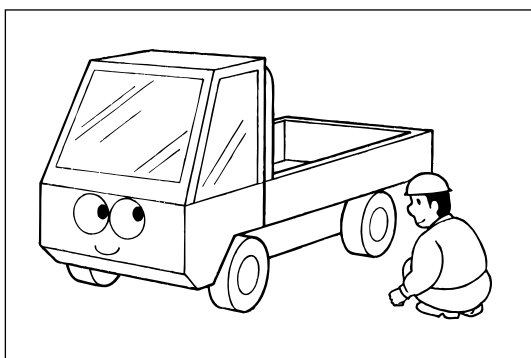
この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。本章以外で記載している各章の安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心掛けてください。



運転前の心得

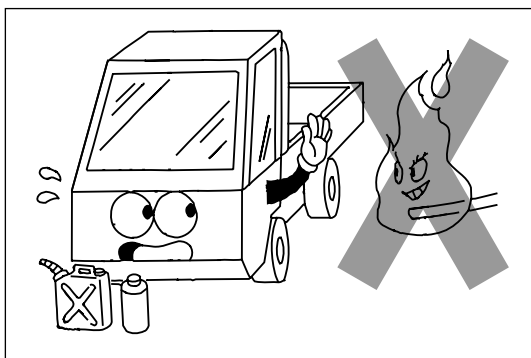
⚠️ 正しい服装の励行

運転および作業にふさわしい服装を心掛け、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。



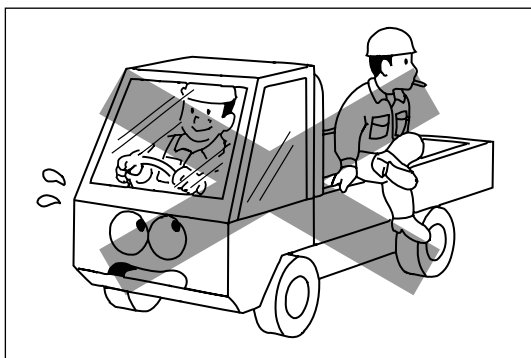
⚠️ 始業点検の励行

運転の前に始業点検を必ず励行し、異常箇所は直ちに補修してください。



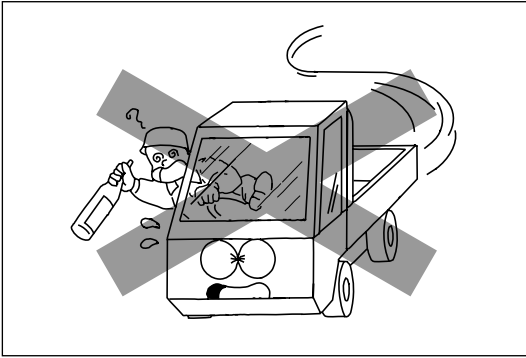
⚠️ 火気厳禁

燃料、油脂の取扱い時は、絶対に火気（タバコの火など）を近付けないでください。また、バッテリーの充電中やエンジンの整備時にも火気には十分注意して作業をしてください。



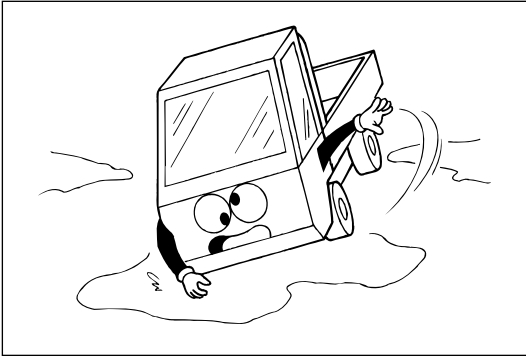
⚠️ 乗車定員厳守

乗車装置以外の乗車は、大変危険ですので、定員をオーバーしての乗車は絶対にしないでください。



⚠ 無謀運転禁止

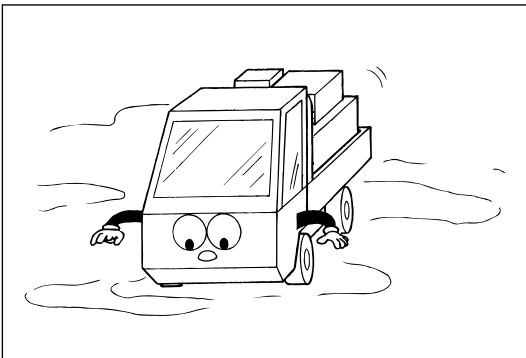
飲酒をして運転したり、体調不良時に無理に運転をすると大変危険です。絶対におやめください。
また、本製品の運転に適さない若年者の運転も絶対におやめください。



走行時の心得

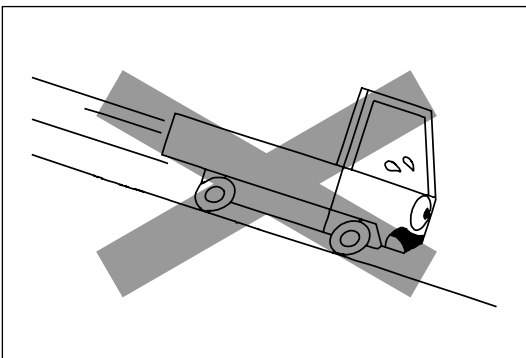
⚠ 急発進、急加速、急旋回、急ブレーキの禁止

急発進、急加速、急旋回および急ブレーキは避け、安全運転を心掛けてください。発進の前には必ず周囲の安全を確認し、軟弱な地盤やぬれた路面での急旋回および急停車はスリップや転倒を招くおそれがあり危険ですので、絶対にしないでください。



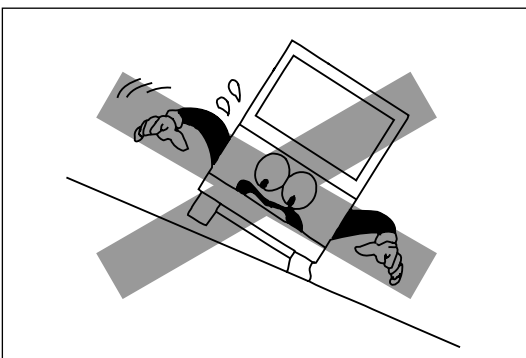
⚠ 安全速度遵守

走行時は、走行路の勾配、路面の状態および積載量に応じた安全速度で走行してください。
また公道を走行する場合は、交通状況に応じた適切な速度で走行してください。



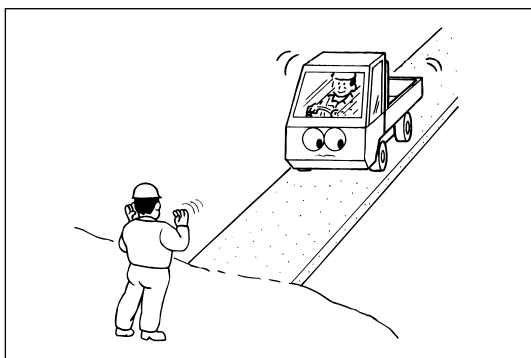
⚠ 下り坂ではエンジンプレーキを

下り坂の前では、一旦停止した後、変速レバーを低速位置に入れ、エンジンプレーキを必ず使用して減速を行ってください（4輪駆動に切換えると、さらに効果的にエンジンプレーキを得ることができます）。フットブレーキを使用しすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。



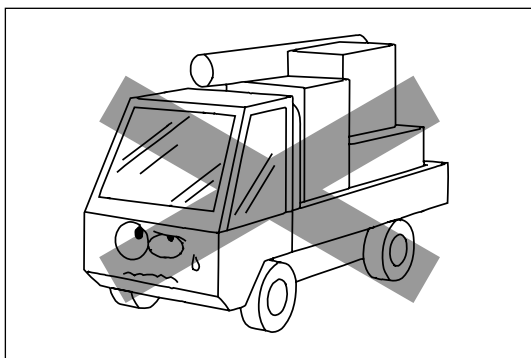
⚠ 斜面での横断禁止

傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。斜面を横断すると、転倒のおそれがあり危険です。



! 危険な場所では誘導者の指示に従う

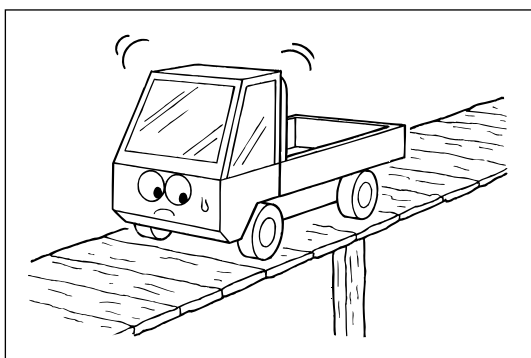
見通しの悪い場所や幅員の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。



積載時の心得

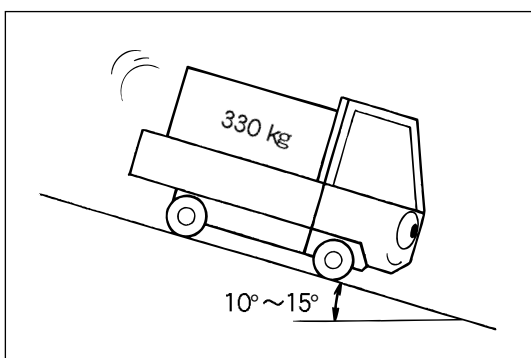
! 過積載禁止

本製品の仕様で規定されている最大作業能力(660kg)を超える積載はしないでください。



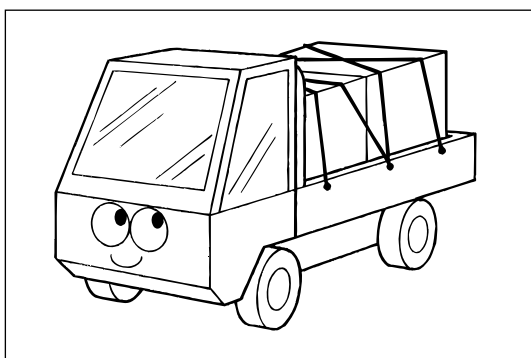
! 制限重量に注意

木橋等を渡る時は、本製品の機械重量と積載量の総重量が、木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



! 傾斜地での積載量に注意

10°~15°の傾斜地では、積載量を330kg以下にして走行してください。15°を超える急傾斜地では、本製品をなるべく使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、空車状態で運転をしてください。

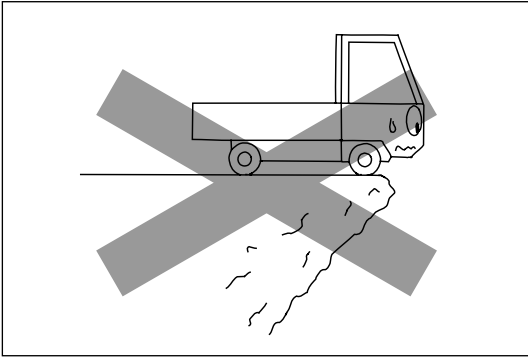


! 積み荷は正しく載せる

積み荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定するよう心掛けてください。また、積み荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。

3

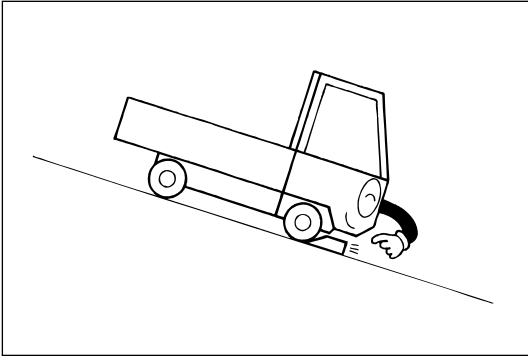
安全運転・作業のための心得



駐車時の心得

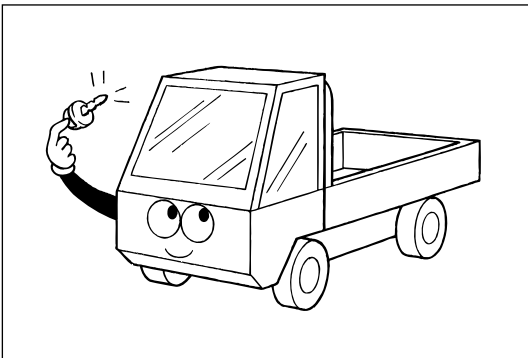
! 危険な場所での駐停車禁止

駐停車の際は足場のよい平坦地に車体を止め、危険な場所での駐停車はしないでください。



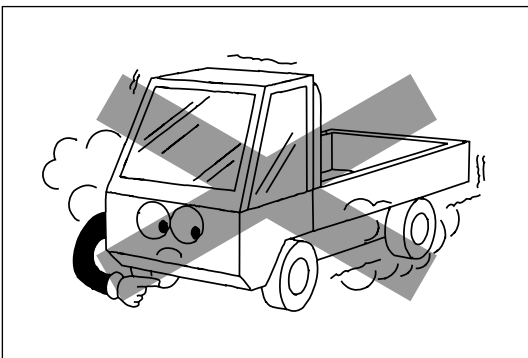
! 坂道での輪止め励行

坂道での駐車は避けてください。やむなく坂道で駐車するときは、駐車ブレーキを確実にかけ、変速ギヤを前進または後進1速に入れた後、輪止めをしてください。



! 駐車時の安全確認

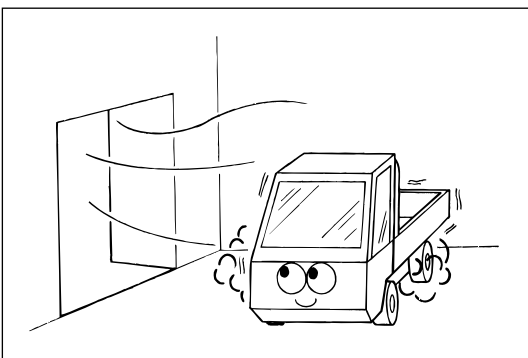
駐車時は、駐車ブレーキを必ずかけ、エンジン停止を励行してください。
また、キーを忘れずに抜いてください。



整備時の心得

! エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は整備を行わないでください。
必ずエンジンを停止してから整備をしてください。

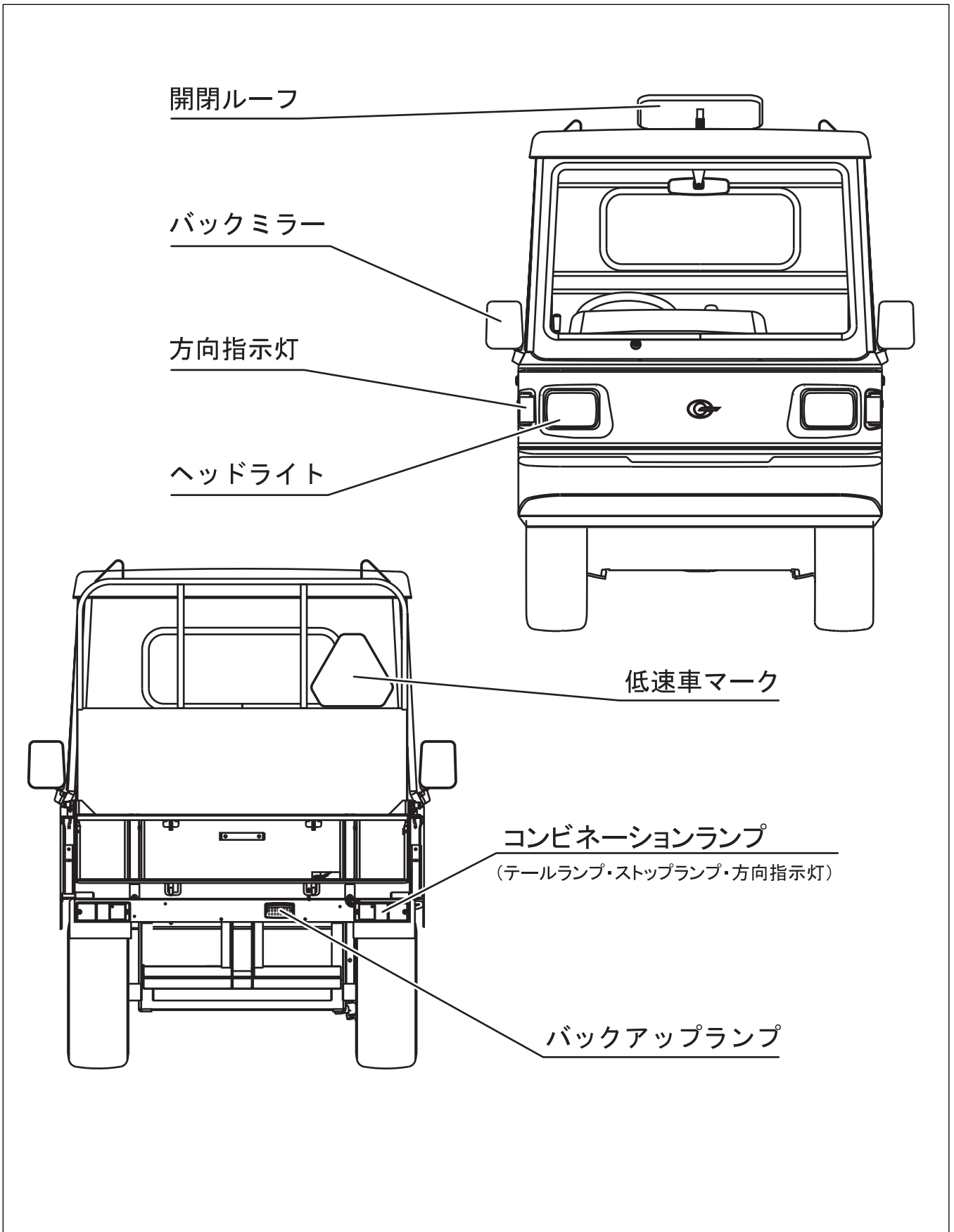


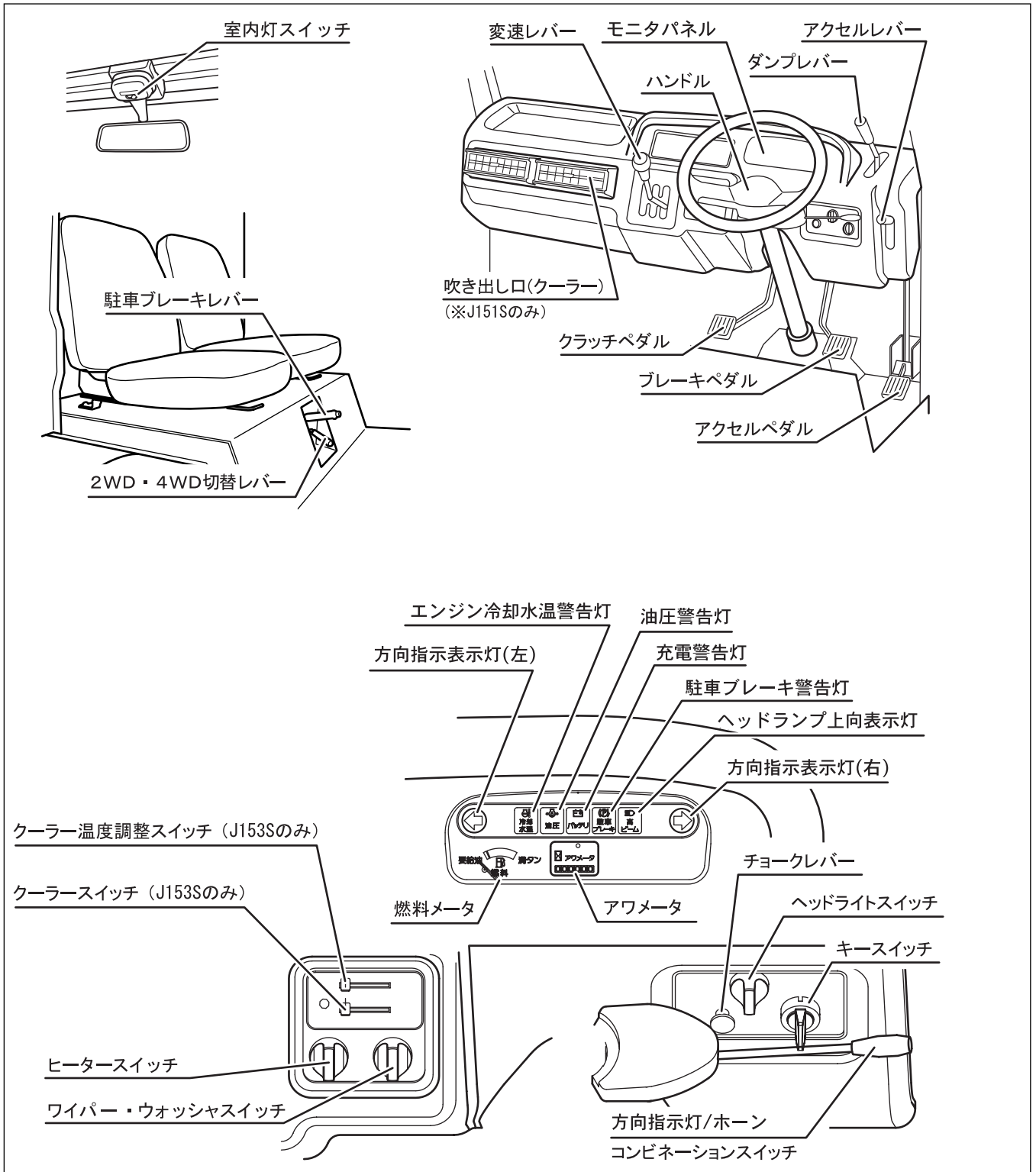
! 換気に注意

室内でエンジンを運転させる時は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくしてから作業を行ってください。

4. 各部の名称とはたらき



各部の名称





各部のはたらき

- 変速レバー 走行速度の選択に使用します。
変速はクラッチペダルを踏み込み、車体が停止した状態で行ってください。
※前進3、4速は走行中でも変速可能です。
- ダンプレバー 荷台の「上昇」、「下降」を行う時に使用します。
- アクセルペダル エンジン回転数の増減を行います。
- アクセルレバー エンジン回転数の増減を行い、一定回転数を保持します。

- クラッチペダル エンジンからトランスミッションへの動力を断続させます。クラッチペダルを踏み込むとクラッチが「切」の状態になります。
- ブレーキペダル 車体の停止、又は減速を行う時に使用します。
- 駐車ブレーキレバー 車体を確実に駐車させます。レバーを引くと駐車ブレーキがかかります。解除する時は、レバーを軽く引き上げ先端のボタンを押して下へ戻します。
- ヘッドライトスイッチ ヘッドライトとテールランプを点灯するときに使用します。ヘッドライトは「O」の位置で下向き、「O」の位置で上向きにすることができます。
- エンジンキースイッチ エンジンを始動および停止させます。
- 方向指示灯／ホーン
コンビネーションスイッチ レバーを前後方向に操作すると方向指示灯が点滅します。左折の場合はレバーを前に、右折の場合はレバーを後ろにします。また、レバーを上方に引くとホーンが鳴ります。
- チョークレバー レバーを引くとチョーク弁が閉じ、戻すと開きます。エンジン始動時に引っ張り、始動後戻します。
- ワイパ・ウォッシュスイッチ 雨天時、ワイパーを作動させるのに使用します。また、スイッチを押すと、ウィンドウォッシュ液が噴出します。
- 2WD・4WD切替レバー 後輪駆動（2WD）4輪駆動（4WD）の切替時に使用します。
- ヒータースイッチ ヒーターを使用するときに操作します。
- クーラースイッチ(J153Sのみ) クーラーを使用するときに操作します。
- クーラー温度調整スイッチ(J153Sのみ) クーラーの温度を調整するときに使用します。
- モニタパネル
 - ・燃料計 エンジンキースイッチが「入」の時、燃料の残量を表示します。
 - ・アワメータ 走行時間を時間で表示します。
 - ・方向指示表示灯 方向指示灯と連動してランプが点滅します。
 - ・ヘッドランプ上向表示灯 ヘッドランプを上向きにすると点灯します。
 - ・駐車ブレーキ警告灯 エンジンキースイッチが「入」の時、駐車ブレーキをかけると点灯します。
 - ・エンジン冷却水温警告灯 エンジン回転中にエンジン冷却水温に異常があると点灯します。
 - ・充電警告灯 キースイッチ“ON”にすると点灯し始動すると消灯します。エンジン回転中で充電装置に異常があると点灯します。
 - ・油圧警告灯 キースイッチ“ON”にすると点灯し始動すると消灯します。エンジン回転中でエンジンオイルに異常があると点灯します。
- 室内灯スイッチ 室内灯を点灯するときに使用します。

5

製品仕様

5. 製品仕様

5.1 本製品の仕様

注 記

本製品の仕様を理解した上で、正しく本製品を使用してください。

名 称 ・ 型 式			J152S	J153S
			KUH	KUHC
機 械 質 量		kg	850	860
最 大 作 業 能 力		kN (kg)	6.46 (660)	
機 械 寸 法	全 長		mm	3350
	全 幅		mm	1320
	全 高		mm	1800
	軸 距 (ホイールベース)		mm	1690
	輪 距 (トレッド)		前/後 mm	1015/1030
	最 低 地 上 高		mm	155
	床 面 高 さ		mm	665
荷 箱 寸 法	荷 箱	長 さ	mm	1850
		幅	mm	1195
	内側寸法	高 さ	mm	230
エ ン ジ ン	名 称			クボタ GZ460
	形 式			水冷4サイクルガソリン
	シリンダ (内径×行程)		mm	69.0×61.0
	総 排 気 量		cm ³ (cc)	456
	最 大 出 力		kW/min ⁻¹ (PS/rpm)	12.1/3600 (16.5/3600)
	連 続 定 格 出 力		kW/min ⁻¹ (PS/rpm)	7.7/3200(10.5/3200)
	最 大 ト ル ク		N·m/min ⁻¹ (kgf·m/rpm)	35.3/2500(3.6/2500)
	始 動 方 式			セルフスタータ式
	使 用 燃 料			ガソリン
	燃 料 消 費 率		g/kW·h (g/PS·h)	313 (230)
	燃 料 タ ン ク 容 量		ℓ	16
	潤 滑 油 容 量		ℓ	1.4
	バ ッ テ リ 形 式			40B19R
	バ ッ テ リ 容 量		V/AH	12/28
点 火 方 式			電子点火	
点 火 プ ラ グ 品 番			NGK BKR4E	

名 称 ・ 型 式					J152S	J153S		
					KUH	KUHC		
走行 性能	走 行 速 度	前 進	1	速	km/h	3.8		
			2	速	km/h	6.8		
			3	速	km/h	9.8		
			4	速	km/h	14.9		
	後 進	1	速	km/h	3.8			
		2	速	km/h	6.8			
	最 小 回 転 半 径					m	3.3	
	登 坂 能 力					度	20	
トランスミッション油量					ℓ	2.7		
ディファレンシャル (デフ) 油量					ℓ	1.0		
動力 伝達 装置	ク ラ ッ チ 形 式					乾式多板式		
	主 変 速 形 式					選択噛合式、常時噛合式 (3、4速のみ)		
	操 向 装 置 形 式					前輪操舵		
	ブ レ ー キ 形 式					油圧内拡式ブレーキ		
	タ イ ヤ	前 輪				22×8.50-12		
後 輪				22×8.50-12				
ダ ン プ 装 置	ダ ン プ 方 式					一方油圧ダンプ		
	荷 台 形 式					箱型三方開き		
	油 圧 ポ ンプ	形 式					ギヤポンプ式	
		定 格 回 転 速 度					rpm	1500
		定 格 吐 出 量					ℓ/min	8.0
		リリーフ設定圧					MPa (kg/cm ²)	11.8 (120)
	シリンダ (内径×行程)					mm	50×200	
	性 能	最 大 上 昇 角 度					度	60
		上 昇 時 間					sec	4~6
		下 降 時 間					sec	3~5
油 圧 作 動 油 量					ℓ	1.6		

※この仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

5.2 工具袋明細

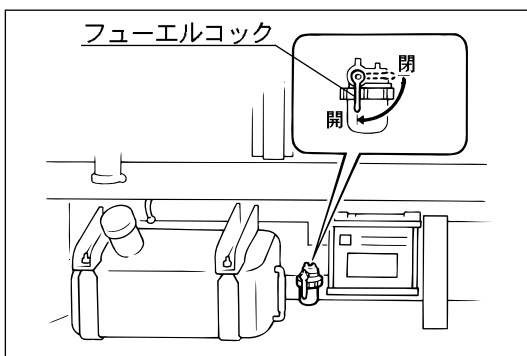
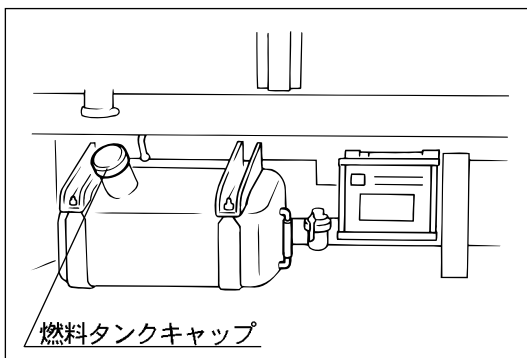
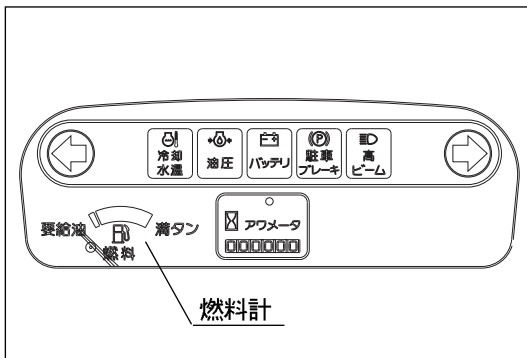
No.	部 品 名	個 数	備 考
1	取扱説明書 (本書)	1	
2	エンジン取扱説明書	1	
3	エンジン工具	1式	
4	ダンプ防止ボルト	2	

6. 運転と操作

- 本章を読む前に第3章「安全運転・作業のための心得」(☞5ページ～8ページ)を必ずお読み下さい。
- 運転および操作については、必ず本章の指示に従い、自己判断による見切り操作は絶対にしないでください。

6.1 運転前の準備

6.1.1 燃料の給油



⚠ 危険

- 給油の際は火気（タバコの火など）を絶対に燃料およびエンジンに近付けないでください。引火の原因となります。
- 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- エンジン停止直後はエンジンが高温になっているため、給油の際に燃料注入口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。こぼれた際には速やかにふき取ってください。

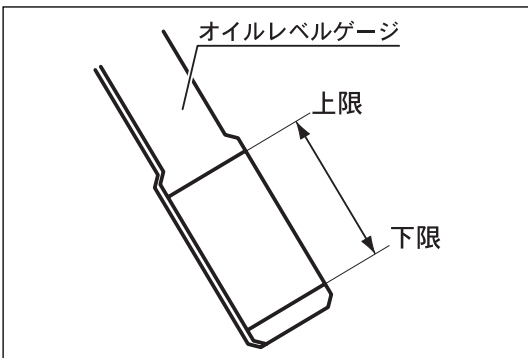
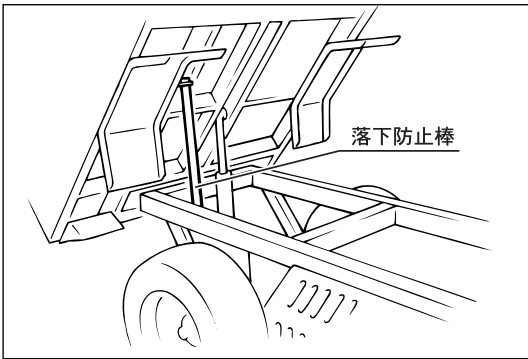
1. メータパネルの燃料計で燃料の残量を確認し、燃料が不足している場合は、燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。

使用燃料：☞34ページ

燃料タンク容量：☞34ページ

6.1.2 燃料の供給

1. フューエルコックを「閉」から「開」の位置にし、エンジンへの燃料の供給を開始します。



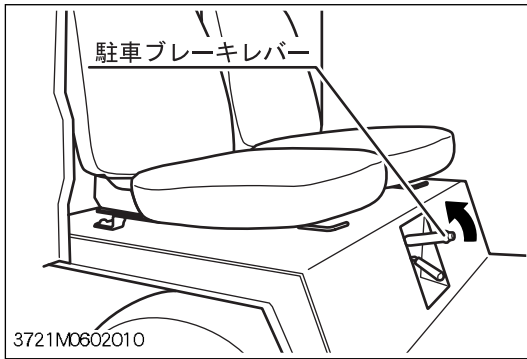
6.1.3 エンジンオイル量の点検と補給

1. エンジンを始動します。(☞16ページ)
2. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。(☞22ページ)
3. エンジンを停止します。(☞20ページ)
4. オイルレベルゲージを取外します。
5. エンジンオイル量を点検し、規定量にない場合はエンジンオイルを補給します。

使用オイル：☞34ページ

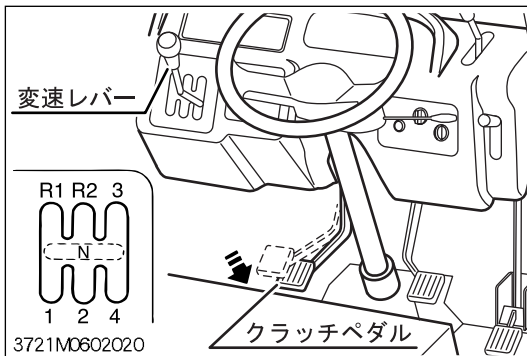
エンジンオイル量：

オイルレベルゲージの上の刻み線または「上限」と「下限」の間
(上限以上は入れないでください。)

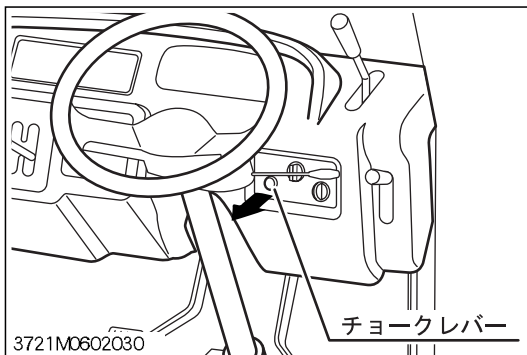


6.2 始動のしかた

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。



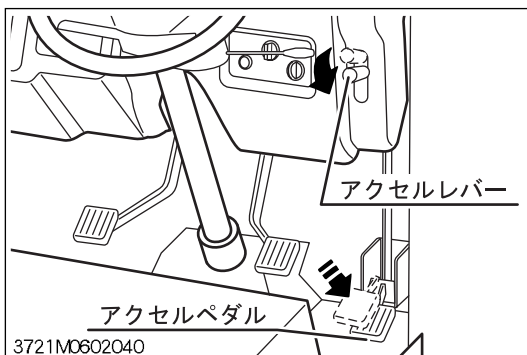
2. クラッチペダルを踏み込み、変速レバーを「N（ニュートラル）」の位置にします。



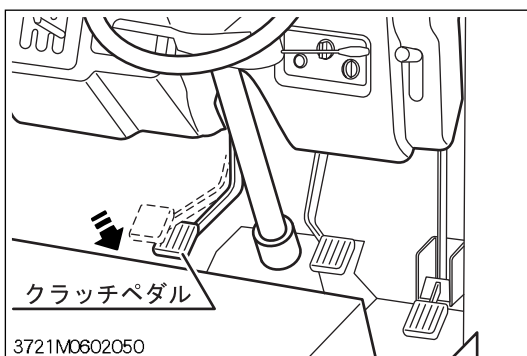
3. チョークレバーを引っ張り、「全閉 (N)」の位置にします。

注 記

エンジンが暖まっている時は、チョークレバーを引っ張る必要はありません。



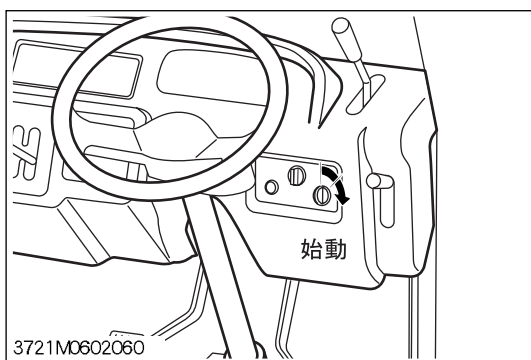
4. アクセルペダルを軽く踏み込むか、またはアクセルレバーを軽く引いて「低速」と「高速」の中間位置にします。



5. クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。

注 記

本機は始動安全装置を装備しているため、クラッチペダルを踏み込まないと、エンジンは始動しません。



6. エンジンキーを差し込み、「始動」位置まで回し、エンジンを始動させます。
7. エンジンが始動したら、直ちにエンジンキーから手を離します。

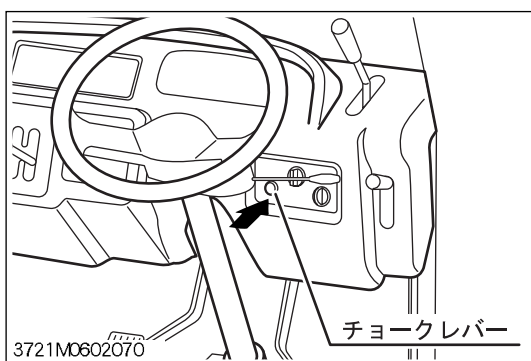
注 記

- 始動しない場合、5秒以上連続してセルモータを回さないでください。キーを「入」位置に戻し、10秒位休んでから再始動するようにしてください。
- 頻繁なセル始動はなるべく避け、エンジンが始動したら、しばらく連続運転して、バッテリーを充電するようにしてください。

▲ 注意

エンジン回転中は、キースイッチを「始動」位置に絶対に回さないでください。セルモータの破損の原因になります。

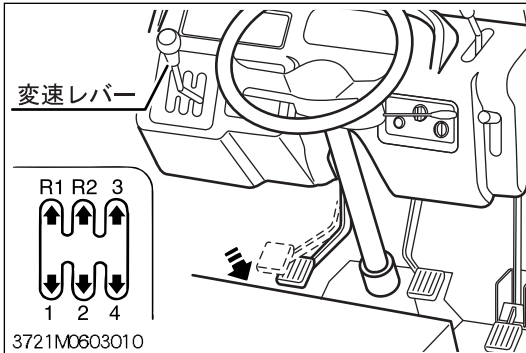
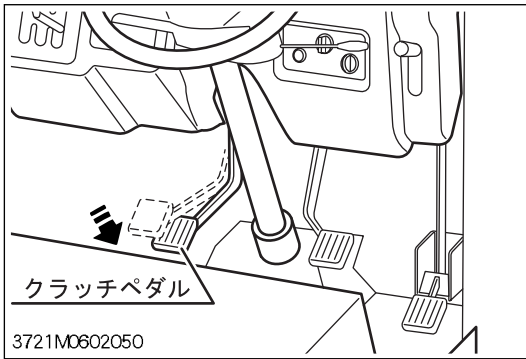
8. アクセルレバーを「低速」側に戻します。
9. アクセルペダルから足を離します。
10. クラッチペダルから足を離します。



11. チョークレバーを「全開 (|||)」の位置に戻し、3～5分間暖気運転をします。

注 記

- 購入後、最初の一週間（約40～50時間）は、慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。



6.3 運転のしかた

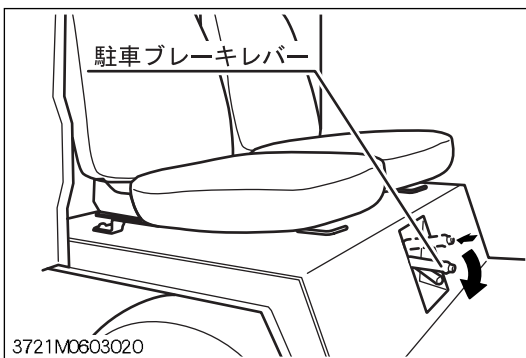
1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。
3. 変速レバーを前進（1速～4速）または後進（R 1 速～R 2 速）の任意の変速位置に確実に入れます。（各変速位置での走行スピードについては、第5章の「製品仕様」を参照してください。☞13ページ）

⚠ 危険

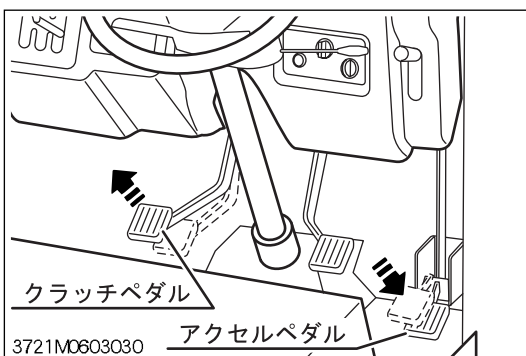
変速（ギヤチェンジ）が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり大変危険です。ギヤが入りにくいときは、無理に入れずに、クラッチペダルを一旦離して再度踏み込み、確実にギヤチェンジを行ってください。

注 記

4速での発進はクラッチの早期摩耗等の原因となりますので、なるべく避けてください。



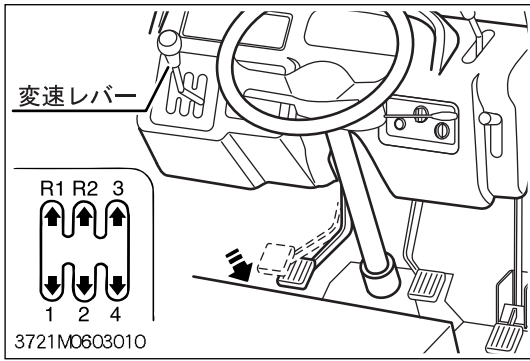
4. 駐車ブレーキレバーを解除します。



5. アクセルペダルを軽く踏み込み、エンジン回転数を上げておきます。
6. クラッチペダルを徐々に上げ（半クラッチ）、車体をゆっくり発進させます。

注 記

クラッチペダルを急に上げると、エンストする場合があります。

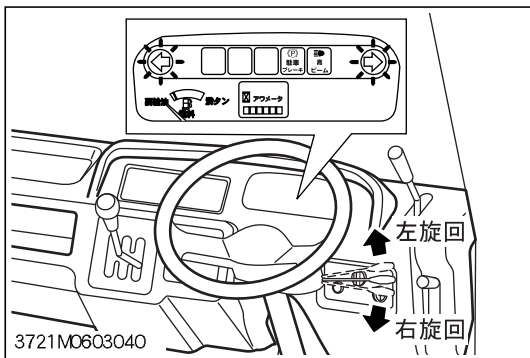


(変速する場合)

7. 車体を停止させた後、前ページ1～3の操作を行います。(車体の停止のしかたについては、6.4『停止のしかた』を参照してください。☞20ページ)

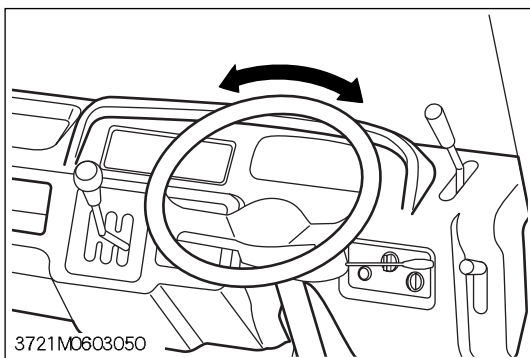
⚠ 注意

3速から4速または4速から3速への変速を除き、走行中の変速はできません。必ず車体を停止させてから変速操作を行ってください。



(旋回する場合)

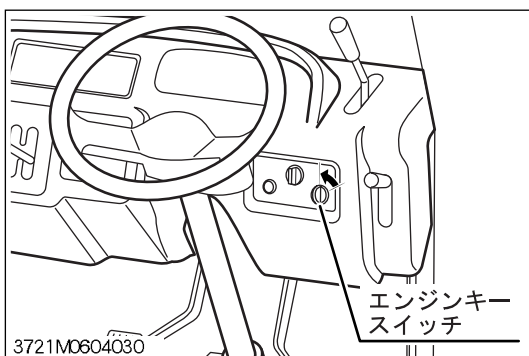
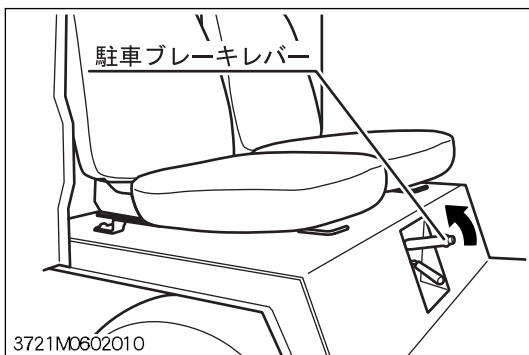
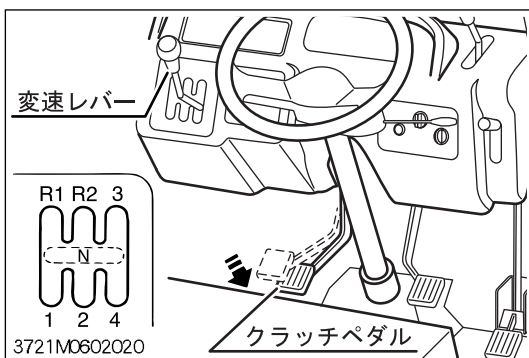
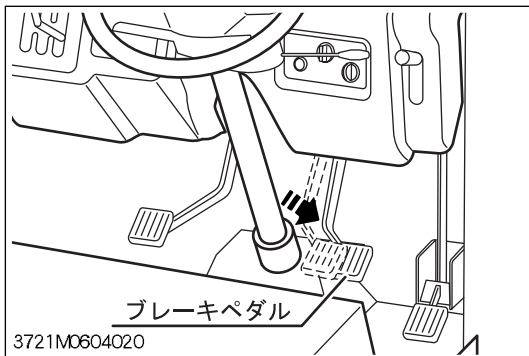
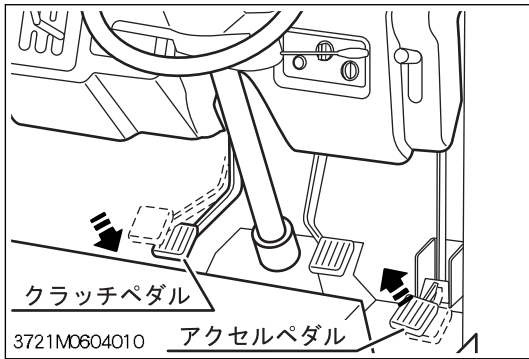
7. 方向指示灯／ホーンコンビネーションスイッチを旋回したい側(図示参照)に動かします。(旋回する側の方向指示表示灯が点滅します。)



8. ハンドルを左側または右側に切り、旋回します。

⚠ 危険

高速走行での急旋回は転倒のおそれがあり、危険です。

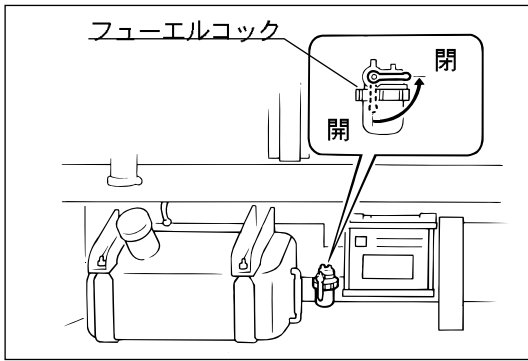


6.4 停止のしかた

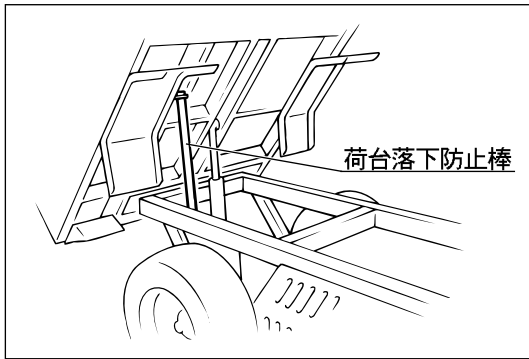
1. アクセルペダルから足を離し、エンジンの回転数を落とし、車体を減速させます。
2. クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。
3. ブレーキペダルを徐々に踏み込みます。
4. 車体が完全に停止したら、変速レバーを「N（ニュートラル）」の位置にします。
5. 駐車ブレーキを確実にかけます。
6. クラッチペダルから足を離します。
7. ブレーキペダルから足を離します。
8. エンジンキースイッチを「切（OFF）」の位置に回し、キーを抜き取ります。

注 記

キースイッチを「入（ON）」のままにしておくと、バッテリーから各回路に電流が流れ続け、バッテリーの上がりの原因になります。



9. フューエルコックを閉じます。



6.5 ダンプ操作

⚠ 危険

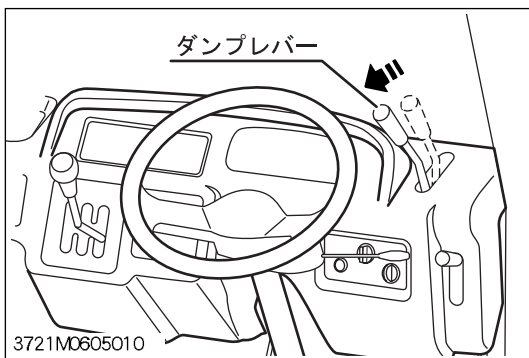
- 荷台を上昇したまま荷台下等の点検を行なう場合は、危険防止のため、本体に備え付けの荷台落下防止棒にて荷台を確実に支えてください。
- ダンプ操作時は周囲の安全確認を必ず行ってください。

⚠ 警告

急傾斜地でのダンプ操作は、車体が不安定になり、非常に危険ですので、お避けください。やむを得ず坂道でのダンプ操作を行なう場合は、走行部にりん木等を敷き、車体を水平にしてご使用ください。

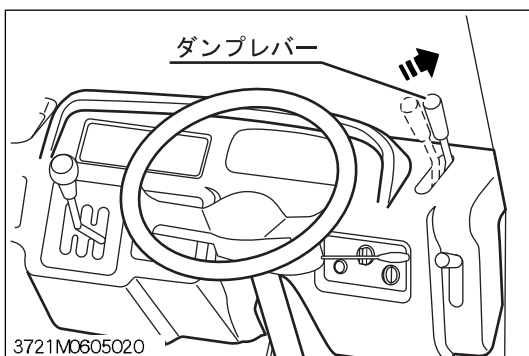
⚠ 注意

荷物を積載したまま荷台を下降させる場合、車体に衝撃を与えないよう、エンジン回転数を低くして荷台をゆっくり下げてください。



(荷台を上昇させる場合)

1. エンジンを始動し、アクセルレバーを「高速」の位置にして、エンジン回転数を上昇させます。
2. ダンプレバーを「上昇」の位置に徐々に倒します。
3. 荷台が上限まで上がるとリリース作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。



(荷台を下降させる場合)

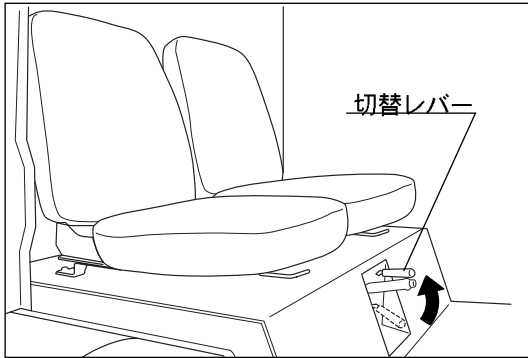
1. ダンプレバーを「下降」の位置に徐々に倒します。
2. 荷台が下限まで下がるリリース作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。

6.6 2WD・4WD切替え操作

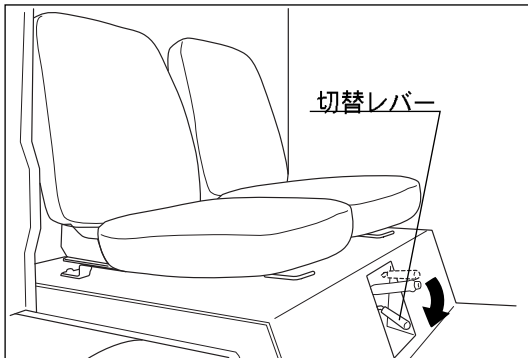
注 記

天候および路面状況に応じて、2WD（2輪駆動）と4WD（4輪駆動）の切替操作をしてください。通常走行時は2WDを選択し、下記の状況下では4WDを必要に応じて選択してください。

- 濡れて滑りやすい路面、積雪時、凍結路
- 山道、急坂路、湿った砂地



- 2WD→4WDへの切替え
切替レバーを「入」の方へ入れます。「入」の位置に保持され、走行中でも切替えます。



- 4WD→2WDへの切替え
切替レバーを「切」の方へ戻します。

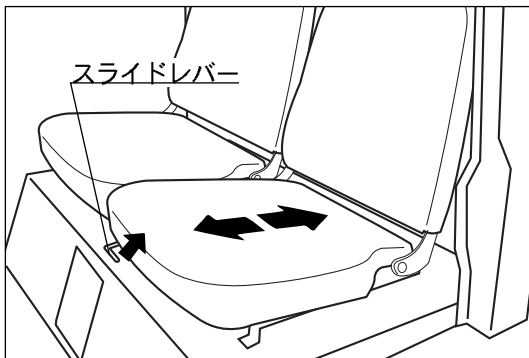
▲ 注意

切替レバーを「切」にしても（切替えのツメ部に負荷がかかっていると切替えがスムーズにできない場合があります。切替レバーを「切」にした後は、場所を見つけて2～3 m後退した後、前進して確実に解除してください。

6.7 シートスライド・前倒し操作

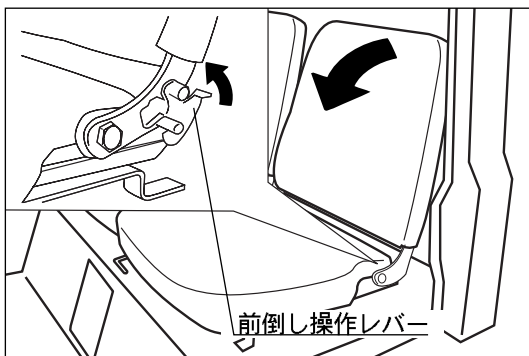
▲ 注意

- 走行中は運転席シートのスライドおよび前倒し操作をしないでください。シートが突然動き運転を誤り、事故につながるおそれがあります。
- シートをスライドおよび前倒し操作した後はシートを軽く前後にゆさぶり確実に固定してください。固定されていないとシートが突然動き事故につながるおそれがあります。
- 背もたれと背中の中にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないため、事故につながるおそれがあります。
- シートをスライドおよび前倒し操作しているときはシートの下や動いている部分の近くに手を近づけないでください。指や手をはさみケガをするおそれがあります。



シートスライド

1. 車体を停止し、駐車ブレーキを確実にかけます。
2. スライドレバーを引いたままシートをスライドさせ、任意の位置でレバーから手をはなし、シートを固定します。



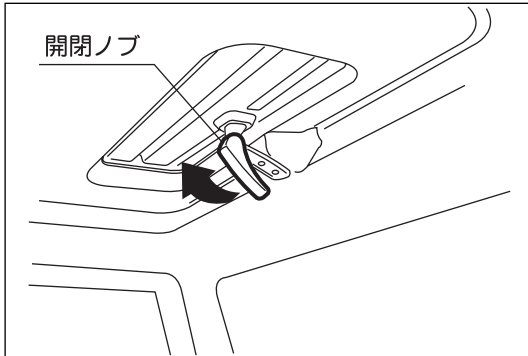
シート前倒し機構

1. 車体を停止し、駐車ブレーキを確実にかけます。
2. 操作レバーを矢印の方向へ動かしながら、背もたれを前に倒します。

6.8 開閉ルーフの操作

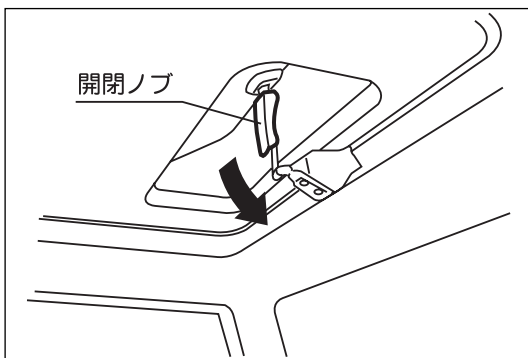
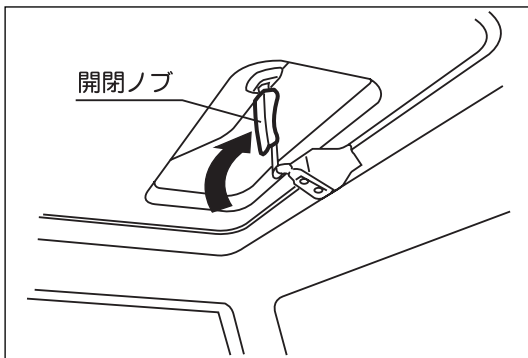
▲ 注意

- 開閉ルーフの操作は、車体を停止させてから、行ってください。走行中に操作すると運転を誤り事故につながるおそれがあります。



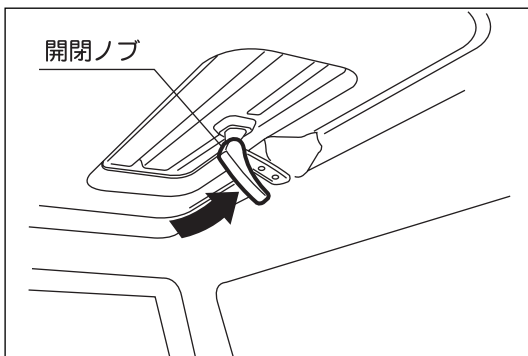
開く

1. 車体を停止し、駐車ブレーキを確実にかけます。
2. 開閉ノブを手前に引き、押し上げて固定します。



閉じる

1. 開閉ノブを引き下げます。
2. 左図のように固定します。



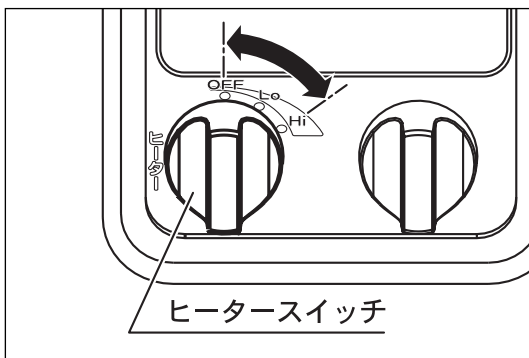
6.9 ヒーターの操作

▲ 警 告

- 空気の吸い込み口や吹き出し口に、棒や手を入れないでください。内部でファンが回転しておりけがの原因になります。
- 掃除するときや整備・点検のときは、必ずキースイッチを“OFF”にしてください。ファンが回転してケガをします。

▲ 警 告

- ヒーター運転中に乗員が下記の行為を行わないように注意を促してください。火傷の原因になります。
- ヒーターの吹き出しの温風を長時間にわたり、手や足に当てないで下さい。
- ヒーターの吹き出し口や表面及び温水ホースに触れないでください。

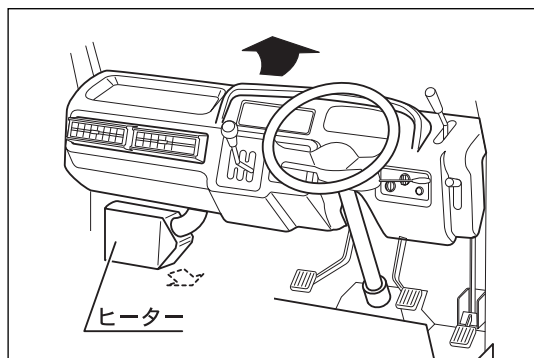


6.9.1 ヒータースイッチの操作

室内暖房が必要なときにヒータースイッチを“Lo”または“Hi”の好みの位置に切り替えて使用します。

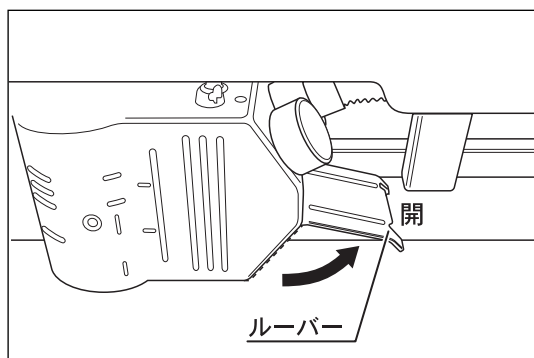
注 記

エンジン始動直後などエンジンが冷えているときはヒーターの効きが悪い場合があります。



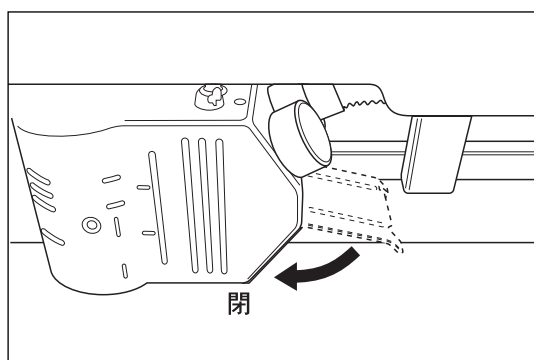
6.9.2 ヒーター吹き出し口

ヒーターの吹き出し口はフロントウインド・足元の2ヶ所あります。



ヒーター吹き出し口の開閉

足元の温風は、ヒーターのルーバーを開閉することで好みに応じて入切できます。



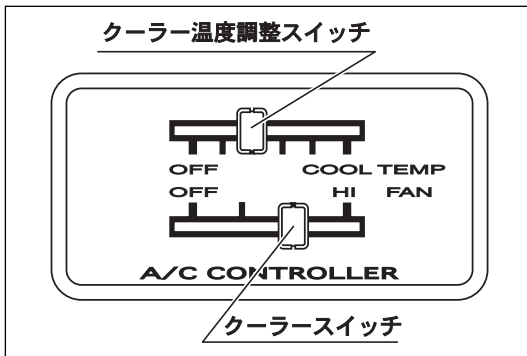
▲ 注意

ヒーターを長時間使用しないときは、ヒーターのルーバーを必ず閉じておいてください。ゴミ等が入り故障の原因となります。

6.10 クーラーの操作 (J153Sのみ)

注 記

クーラー使用中はヒーターを止めてください。ヒーターが作動していると車内が冷えなくなります。



6.10.1 クーラースイッチの操作

● クーラースイッチ

クーラーの作動・停止と風量調整を行います。
○ 風量を弱・中・強(HI)の3段階に切り換えることができます。

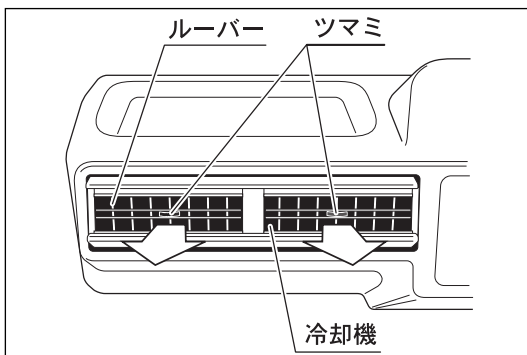
○ クーラーを止めるときは“OFF”にします。

● クーラー温度調整スイッチ

冷風の温度を調整します。

○ “OFF”の位置から“COOL”側にするほどよく冷えます。

○ “OFF”の位置にするとクーラーは止まり、このときクーラースイッチがOFF以外になっていれば風のみ出ます。



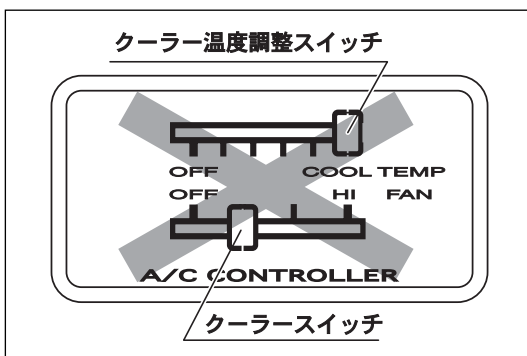
6.10.2 クーラー吹き出し口の調整

左右の吹き出し口からの風向きは、それぞれのツマミを動かしてお好みの向きに調整します。

注 記

・ 湿気の多いときに左図のようなスイッチの組み合わせにすると、冷却器に霜が付いて冷風の吹き出しが弱くなります。

・ このような時は温度調整スイッチを“中”にしてご使用下さい。もし、冷却器に霜が付いた場合はクーラー温度調整スイッチを“OFF”(風は出した状態)にすると霜がとれやすくなります。



7. 保守（お手入れ）

7.1 定期点検表

点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。製品の正常な機能を維持し、いつも安全な状態で運転または作業をするために、下表を参考に点検を行ってください。
 年次点検は1年に1回、月例点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日、点検を行なうようにしてください。

注 記

下表の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については、販売店（当社センター）へ依頼してください。

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考		
		始業	月例	年次			
原 本 動 機	始動性	<ul style="list-style-type: none"> エンジンのかかり具合および異音の有無を調べる。 	始動が容易で、異音がないこと。	○	○	○	
	回転の状態	<ul style="list-style-type: none"> アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数を調べる。また、回転が円滑に続くか調べる。 	正規の回転数であること。回転が円滑に続くこと。		○	○	販売店へ点検を依頼してください。
		<ul style="list-style-type: none"> エンジンを加速した時、スロットルレバーの引っ掛かり、エンジン停止およびノッキングの有無を調べる。 	引っ掛かり、エンジン停止またはノッキングがないこと。	○	○	○	
	排気の状態	<ul style="list-style-type: none"> エンジンを十分に暖機した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音の異常の有無を調べる。 	排気色および排気音が正常であること。	○	○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> 排気管、マフラ等からのガス漏れの有無を調べる。 	ガス漏れのないこと。		○	○	
	エア クリーナ	<ul style="list-style-type: none"> ケースの亀裂、変形およびふた部、接続管の緩みの有無を調べる。 	ケースの亀裂、変形またはふた、接続管に緩みがないこと。		○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> エレメントの汚れおよび損傷の有無を調べる。 	著しい汚れまたは損傷がないこと。		○	○	清掃/交換：☞43ページ
	締付け	<ul style="list-style-type: none"> シリンダヘッドおよびマニホールドの締付け部のボルトおよびナットの緩みの有無を調べる。 *これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合は、この検査を省略してもよい。 	緩みがないこと。			○	
弁隙間	<ul style="list-style-type: none"> 弁隙間を調べる。 *弁隙間の異常による異音がなく、エンジンが円滑に回転している場合は、この検査を省略してもよい。 	正規の弁隙間であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。	

項 目		点 検 内 容	点検時期			備 考	
			始 業	月 例	年 次		
原 動 機	本 体	<ul style="list-style-type: none"> 圧縮圧力を調べる。 *アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい。 	正規の圧縮圧力であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
		エンジンマウント	<ul style="list-style-type: none"> エンジンベースの亀裂および変形の有無を調べる。 	亀裂または変形がないこと。	○	○	○
	<ul style="list-style-type: none"> 取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。 		緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
	<ul style="list-style-type: none"> 防振ゴムの損傷および劣化の有無を調べる。 		損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
	潤滑装置	<ul style="list-style-type: none"> 油量および油の汚れを調べる。 	油量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検/交換：☞36ページ
		<ul style="list-style-type: none"> ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等からの油漏れの有無を調べる。 	著しい油漏れがないこと。	○	○	○	
	燃料装置	<ul style="list-style-type: none"> 燃料タンク、噴射ポンプ、ホース、パイプ等から燃料漏れの有無を調べる。 	燃料漏れの無いこと。	○	○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> 燃料ホースの損傷および劣化の有無を調べる。 	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> 燃料フィルタエレメントの汚れおよび詰まりの有無を調べる。 	著しい汚れまたは詰まりがないこと。		○	○	清掃：☞45ページ
		<ul style="list-style-type: none"> 噴射ノズルの噴射圧力および噴霧状態の異常の有無を調べる。 *アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい。 	正規の噴射力であり、噴霧が正常であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
機	冷却装置	<ul style="list-style-type: none"> 冷却水の量および汚れの有無を調べる。 	水量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> ラジエータ、エンジン本体、ウォーターポンプ、ホース等からの水漏れの有無およびラジエータのフィン目詰まりの有無を調べる。 	水漏れまたは目詰まりがないこと。	○	○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> ホースの損傷および劣化の有無を調べる。 	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
		<ul style="list-style-type: none"> ラジエータキャップのバルブ機能の適否を調べる。 	正常に機能すること。			○	
		<ul style="list-style-type: none"> ラジエータキャップのバルブシート面の損傷の有無を調べる。 	損傷がないこと。			○	
		<ul style="list-style-type: none"> 冷却ファン、カバー、ダクト等の亀裂、損傷および変形の有無を調べる。 	亀裂、損傷または著しい変形がないこと。			○	
		<ul style="list-style-type: none"> 冷却ファン、カバー等の各取付けボルトおよびナット緩みの有無を調べる。 	緩みのないこと。			○	

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考			
		始 業	月 例	年 次				
原 動 機	電気装置	点火プラグ	● 電極の消耗状態、カーボンの堆積の有無を調べる。	消耗がなく、カーボンの堆積がないこと。			○	点検/清掃：☞41ページ
		バッテリー	● 電解液の量が規定の範囲にあるか調べる。	規定範囲にあること。		○	○	点検/補給：☞41ページ
	● 端子部の緩みおよび腐食の有無を調べる。		緩みまたは著しい腐食がないこと。		○	○		
	配 線	● 接続部の緩みの有無を調べる。	緩みがないこと。		○	○		
		● 配線の損傷の有無を調べる。	損傷がないこと。		○	○		
動 力 伝 達 装 置	クラッチ	● アイドリング状態でクラッチを切り異音の有無を調べると共にトランスミッションを変速しクラッチの切れ具合を調べる。	異音がなくクラッチが完全に切れること。		○	○	○	調整：☞47ページ
		● クラッチを徐々に接続して発進の具合を調べる。	滑りがなく接続が円滑であること。		○	○	○	調整：☞47ページ
		● クラッチペダルの遊びを調べる。	適正な値であること。		○	○		点検：☞47ページ
	Vベルト	● 亀裂、損傷および汚れの有無を調べる。	亀裂、損傷がなく油脂類の付着がないこと。		○	○		点検：☞46ページ
		● ベルトの張り具合を調べる。	適正な張りであること。		○	○		点検/調整：☞47ページ
	トランスミッション (ディファレンシャル含む)	● 変速レバーを前進および後進状態にして駆動し、作動状態ならびにギヤ抜け、異音および異常発熱の有無を調べる。	正常に作動し、ギヤ抜け、異音または異常発熱がないこと。		○	○	○	
		● ケース内の油量を調べる。	油量が適正であること。		○	○		点検：☞37ページ
		● 油の汚れを調べる。	著しい汚れがないこと。		○	○		点検：☞37ページ
		● ケース周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れのないこと。		○	○		
	プロペラシャフト	● クラッチをつないでプロペラシャフトに異音および異常振動がないか調べる。	異音および異常振動がないこと。		○	○		
● 曲がりおよび損傷がないか調べる。		曲がりおよび損傷のないこと。		○	○			
走 行 装 置	タイヤ、ホイール	● タイヤの空気圧および溝の深さを調べる。	基準値内であること。		○	○	○	点検：☞49ページ
		● タイヤ、ホイールの亀裂、損傷および偏摩耗の有無を調べる。	亀裂、損傷、偏摩耗がないこと。		○	○	○	
		● タイヤの溝に金属片、石、その他の異物のかみ込みがないか調べる。	かみ込みがないこと。		○	○	○	
		● ホイールボルト、ハブナットの緩み脱落の有無を調べる。	緩み、脱落のないこと。		○	○	○	
		● ホイールベアリング部のガタ、異音および異常発熱の有無を調べる。	ガタ、異音、異常発熱がないこと。		○	○		

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考		
		始業	月例	年次			
制 動 装 置	ブレーキ	● 車両を走行させてブレーキの効き具合をブレーキペダルおよび駐車ブレーキレバーを操作して調べる。	○	○	○		
		● 無負荷状態で1/5勾配の床面で停止の状態に保持できるかを調べる。	○	○	○		
		● ブレーキペダルの遊びを調べる。		○	○		
		● オイルタンク油量を調べる。	○	○	○		
置	ロッド、リンク 及び ワイヤ類	● ロッド、リンクおよびワイヤ類の損傷ならびに取付け部の緩みの有無を調べる。	○	○	○		
		● ブレーキを反復作動させ、連結部の緩みおよびガタならびに割ピンの欠損の有無を調べる。	○	○	○		
車 体 ・ 荷 台	荷 台	● ドアの開閉が円滑に行えるかを調べる。	○	○	○		
		● 各部の亀裂、変形および摩耗の有無を調べる。	○	○	○		
		● 取付けボルトの緩みおよび脱落の有無を調べる。	○	○	○		
	車 体	● 車体およびカバーの亀裂、変形およびボルト、ナットの緩み、脱落の有無を調べる。		○	○		
荷 台 落下 防 止 棒	● 曲がりおよび変形がないか調べる。		○	○			
油 圧 装 置	パッ ケージ	● パッケージ本体からの油漏れの有無を調べる。		○	○	点検/補給：☞39ページ	
		● 機械を水平な場所に置き、油量を調べる。		○	○	点検/補給：☞39ページ	
		● 油の汚れの有無を調べる。		○	○		
	（ダンプ& パワーステア リング用）	● プリーザーの目詰まりの有無を調べる。			○		
		● ブラケットの取付け状態の適否ならびにボルトおよびナットの緩み、脱落の有無を調べる。			○	○	
		● ホースとの継手部ならびにシール部からの油漏れの有無を調べる。			○	○	
		● パッケージを作動させ、無負荷および負荷状態における異常振動、異音、異常発熱の有無を調べる。			○	○	販売店へ点検を依頼してください。
	● パッケージに負荷をかけて、負荷時の吐出量および吐出圧力を調べる。 *前項の検査で異常がなければこの検査は省略してもよい。				○		

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考		
		始 業	月 例	年 次			
安 全 装 置	ライト	<ul style="list-style-type: none"> ライトスイッチを操作し、正常に点灯するか調べる。 	正常に点灯すること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	テールランプ	<ul style="list-style-type: none"> レンズに破損および水等の浸入がないか調べる。 	破損および水等の浸入がないこと。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	ストップランプ	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを操作し、正常に点灯するか調べる。 	正常に点灯すること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
		<ul style="list-style-type: none"> レンズに破損および水等の浸入がないか調べる。 	破損および水等の浸入がないこと。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	方向指示灯	<ul style="list-style-type: none"> 方向指示灯／ホーンコンビネーションスイッチを操作し、正常に方向指示灯およびパイロットランプが点滅するか調べる。 	正常に点滅すること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
		<ul style="list-style-type: none"> レンズに破損および水等の浸入がないか調べる。 	破損および水等の浸入がないこと。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	ホーン	<ul style="list-style-type: none"> 方向指示灯／ホーンコンビネーションスイッチを操作し、正常に鳴るか調べる。 	正常に鳴ること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
	バックミラー	<ul style="list-style-type: none"> 汚れ、損傷、脱落がないか調べる。 	汚れ、損傷、脱落がないこと。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
ワイパー ・ ウィンド ウォッシャ	<ul style="list-style-type: none"> ワイパースイッチを操作し、正常に作動し、ウォッシャ液が噴出するか調べる。 	正常に動作し、ウォッシャ液が噴出すること。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		

7.2 給油、給水、注油一覧表

項 目	補給（交換）時期	推 奨 品	容量	参照ページ
燃料	随時	ガソリン	16 ℓ	☞14ページ
エンジンオイル	補給：毎日点検し、 不足時に補給 交換： 初回：50時間 2回目以降：50時間毎	エンジンオイル (API分類 SH級以上) (SAE分類 10W-30) ※-10℃まで -10℃以下の場合 5W-30	1.4 ℓ	☞36ページ
トランスミッション オイル			2.7 ℓ	☞37ページ
ディファレンシャル (デフ) オイル	初回：50時間目 2回目以降：500時間毎	ギヤオイル (API分類 GL4または5) (SAE分類 #80)	1.0 ℓ	☞38ページ
ナックルオイル			0.1 ℓ (2ヶ所)	☞38ページ
パワーパッケージオイル (油圧ダンブ&パワーステアリング用)	100時間毎に点検し、 不足時に補給	タービン油 (ISO: VG32) (JIS: #90)	1.6 ℓ	☞39ページ
グリースニップル	6ヶ月毎 *購入後、半年は給脂 不要	シャーシグリース	—	☞40ページ
バッテリー液	毎月点検し、不足時に 補給	蒸留水	—	☞41ページ
ウインドウォッシャ液	随時	自動車用ウインドウォッシャ液	1.5 ℓ	☞42ページ

7.3 消耗品（交換部品）一覧表

項 目	部 品 番 号	交 換 時 期	個 数	参照ページ
エアークリーナアッシ		50時間毎に点検し、必要に応じて清掃または交換。	1	☞43ページ
フューエルコック		200時間毎に点検し、必要に応じて清掃または交換	1	☞45ページ
走行Vベルト（SB50）	0852 1300 050	不具合があれば交換	2	交換については販売店へ依頼してください
油圧Vベルト（SB43）	0852 1300 043	不具合があれば交換	1	
コンプレッサ・オルタネータ Vベルト	0851 1600 030	不具合があれば交換	1	
ブレーキライニング	3718 8402 100	不具合があれば交換	4	
バッテリー(40B19R)	3705 3901 000	不具合があれば交換	1	-
タイヤ	3718 2201 000 3718 2202 000	不具合があれば交換	右タイヤ：2 左タイヤ：2	-

注 記

油圧ホースなどのゴム製品は使わなくても老化する消耗品です。
2年ごと、または傷んだときには、新品と交換してください。

7.4 給油

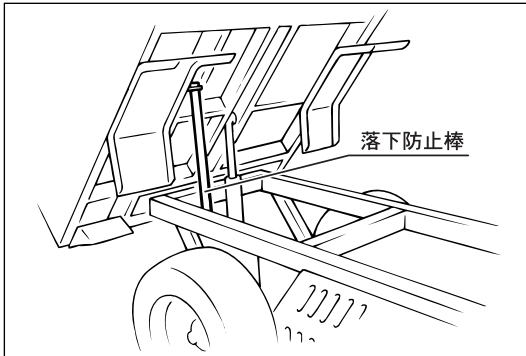
注 記

給油がおろそかになると、回転が円滑に行われ
ないばかりでなく、故障の原因となり機械の寿
命を短くしますので、常に指定の良質オイルを
過不足なく給油してください。

7.4.1 エンジンオイル

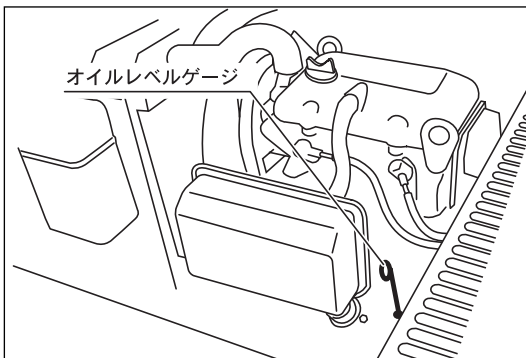
点検前の準備

1. エンジンを始動します。(☞16ページ)
2. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。(☞22ページ)
3. エンジンを停止します。(☞20ページ)



点検／補給

1. オイルレベルゲージを取外します。
2. エンジンオイル量および汚れを目視点検し、規定量でない場合および汚れがひどい場合は、エンジンオイルを補給または交換します。

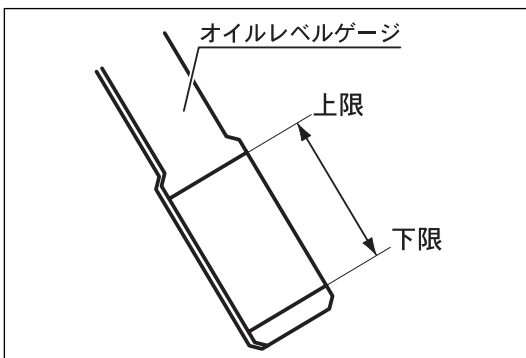


使用オイル：☞34ページ

エンジンオイル量：

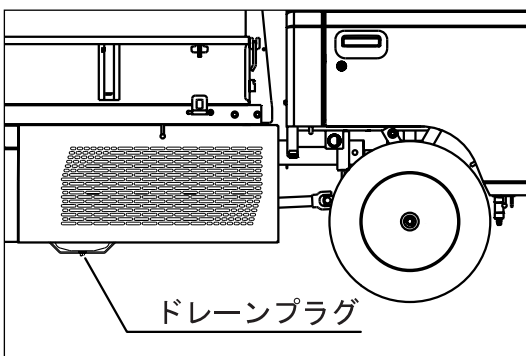
オイルレベルゲージの上の刻み線または
「上限」と「下限」の間
(上限以上は入れないでください。)

3. オイルレベルゲージを取付けます。



交換

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. オイルドレインプラグを取外し、クランクケース内のオイルを排出します。



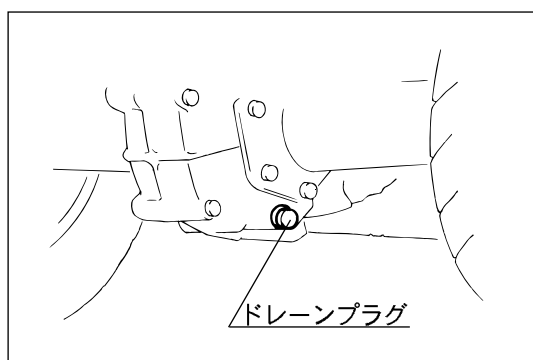
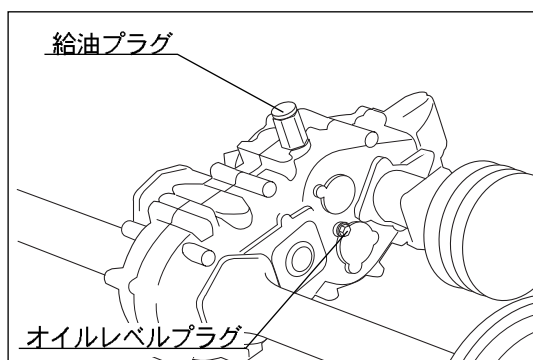
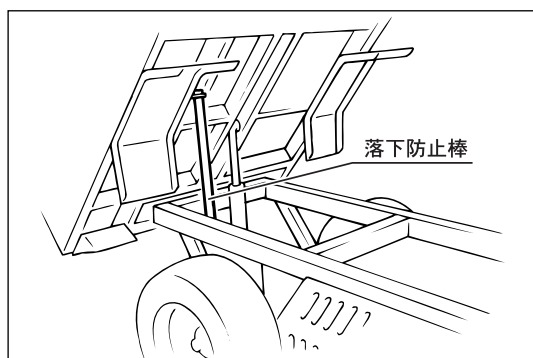
▲ 注意

オイル高温時には火傷のおそれがあります。

注 記

廃油は適切な処理をしてください。

3. オイルドレーンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。



7.4.2 トランスミッションオイル

点検／補給

1. 荷台を上昇させます。（☞22ページ）
2. 荷台落下防止棒で確実に荷台を支えます。
3. オイルレベルプラグを取り外します。
4. オイルレベルプラグの位置までオイルが入っていることを確認し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。

使用オイル：☞34ページ

5. オイルレベルプラグを取付けます。

交換

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取外し、オイルを抜取ります。

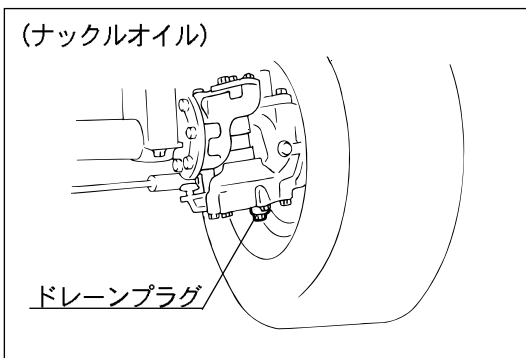
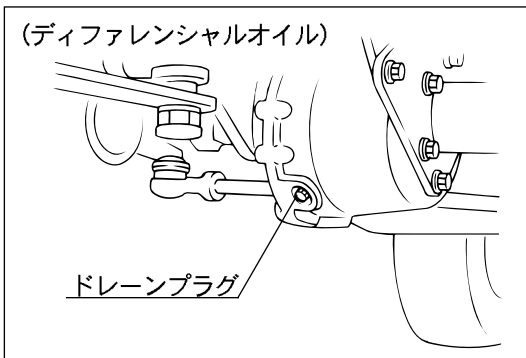
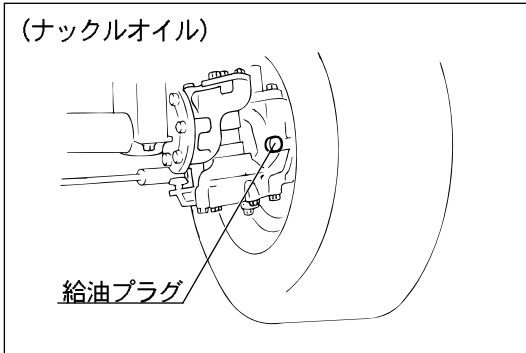
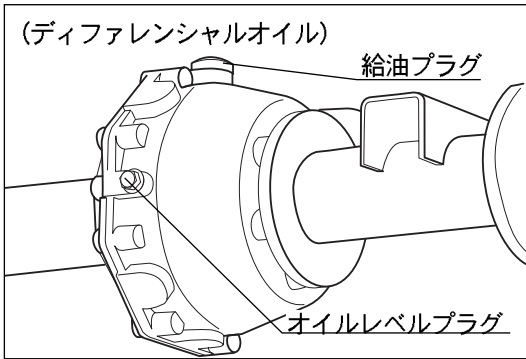
▲ 注 意

オイル高温時には火傷のおそれがあります。

注 記

廃油については適切な処理をしてください。

3. ドレーンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。



7.4.3 ディファレンシャル（デフ）オイル、ナックルオイル

点検／補給

1. オイルレベルプラグを取り外します。
2. オイルレベルプラグの位置までオイルが入っている事を確認し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。

使用オイル：☞34ページ

3. オイルレベルプラグを取付けます。

交換

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取外し、オイルを抜取ります。

参考：

給油プラグを取外すと、オイルが抜取りやすくなります。

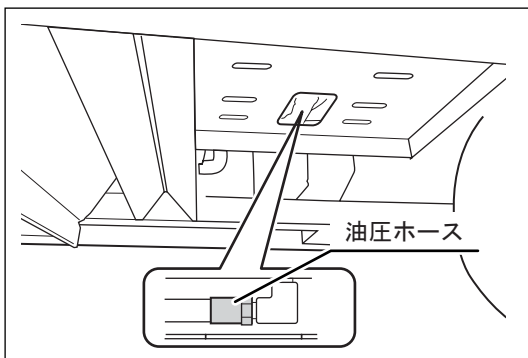
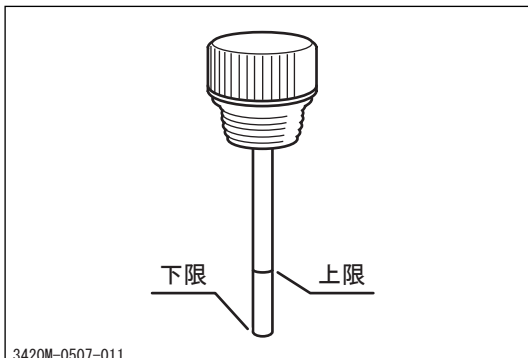
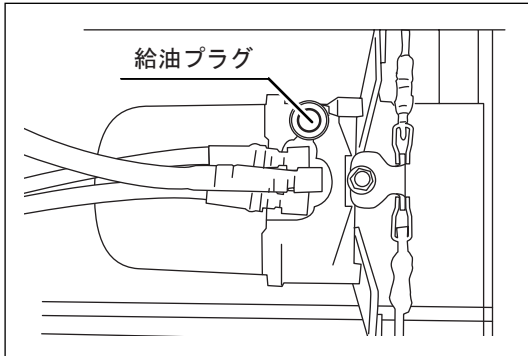
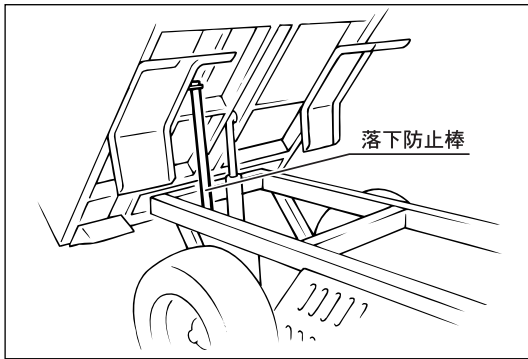
▲ 注意

オイル高温時には火傷のおそれがあります。

注 記

廃油については適切な処理をしてください。

3. ドレーンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。
(上記「点検／補給」を参照)



7.4.4 パワーパッケージオイル（ダンプ&パワステ）

点検／補給

注 記

オイルが減るとホースおよびシリンダ内に空気が入り、ダンプの昇降スピードが遅くなったり、ハンドルが重くなるなどの現象が現われますので、100時間毎にオイルの点検を行ってください。

1. 荷台を上昇させます。（☞22ページ）
2. 荷台落下防止棒で確実に荷台を支えます。
3. エンジンを停止します。
4. 給油プラグ（レベルゲージ付き）を取り外します。
5. 荷台上昇時には、オイルレベルはレベルゲージの下限まで下がります。オイル量を目視点検し、オイルレベルが下限以下の場合には補給します。

使用オイル：☞34ページ

6. エンジンを再始動し、荷台を上昇して落下防止棒を収納します。その後、荷台の上昇・下降を数回繰り返しオイルを循環させます。

交換

1. オイルを抜取るための適当な容器を用意します。
2. パワステ用のもどり油圧ホースを取り外しオイルを抜き取ります。

注 記

廃油は適切な処理をしてください。

3. 油圧ホースを取り付けます。
4. 給油キャップを開け、オイルを注入します。

注 記

エンジンを始動し、荷台を上昇させると、最初にはエアが入っているのでノックしますが、2～3回繰り返すと正常な状態になります。

7.5 給脂

注 記

給脂がおろそかになると、焼き付きや錆付きの原因となり、回転が円滑に行われないおそれがありますので、常に指定の良質グリースを過不足なく給脂してください。

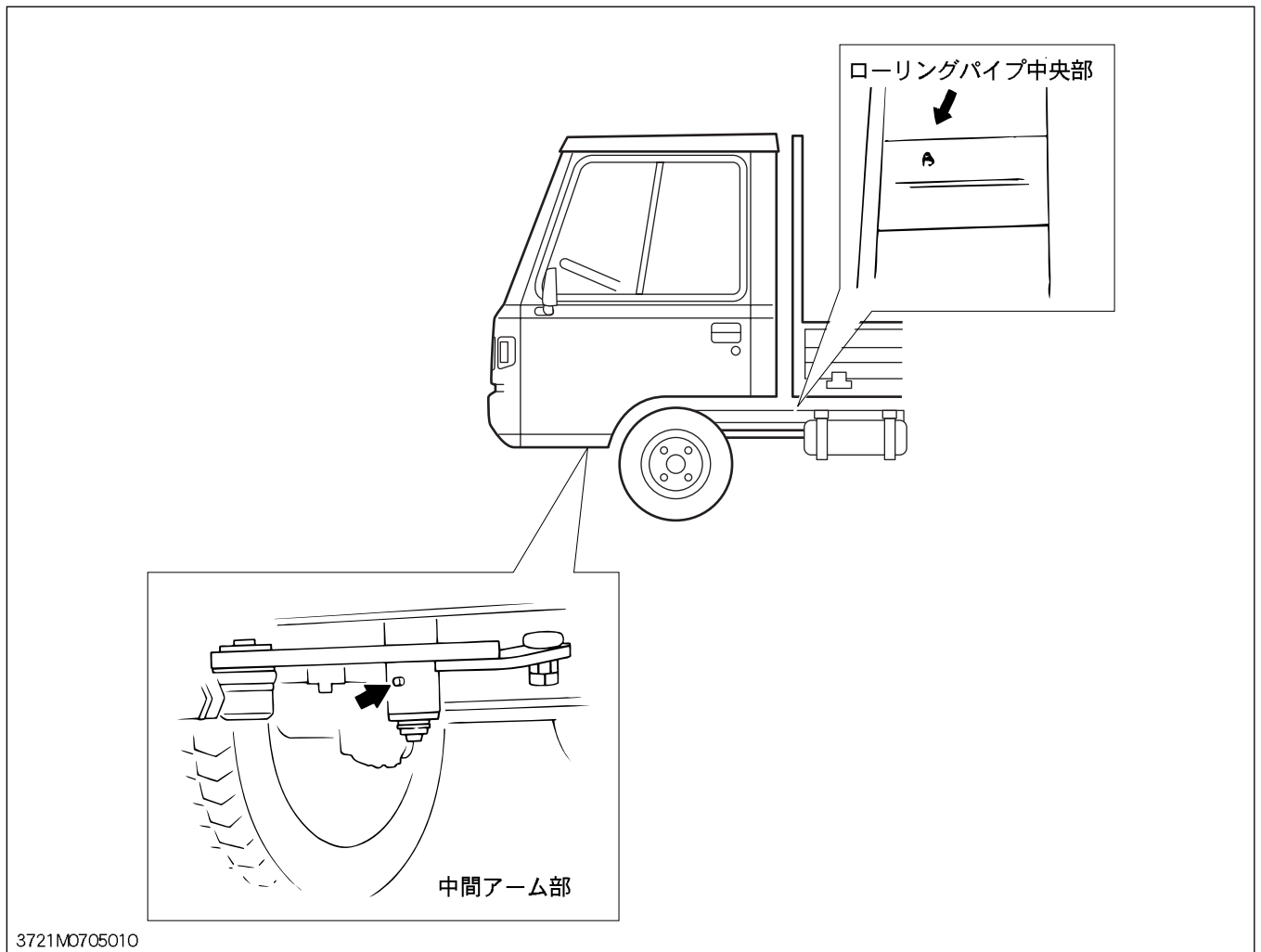
1. 市販の手動式グリースポンプまたはエア式グリースポンプを使用して図示箇所に給脂します。

使用グリース：☞34ページ

参考：

手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら、直ちに給脂を中止してください。エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒で十分です。

給脂箇所（グリースニップル装備箇所）



7.6 給水

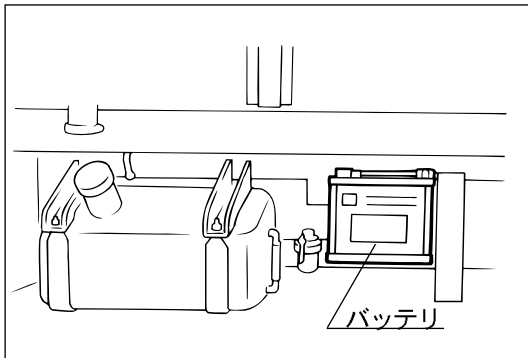
7.6.1 バッテリー液
点検／補給

⚠ 危険

バッテリーから発生するガスは引火性があるため、バッテリーに火気（煙草の火等）を絶対に近づけないでください。爆発するおそれがあります。

⚠ 注意

- バッテリー液を身体や服に付けないようにしてください。付着したまま放置すると、バッテリー液（希硫酸）によって、やけどすることがあります。
- バッテリーの点検および取外しのときにはエンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。



1. バッテリー液の量を目視点検し、必要な場合はバッテリー液を補給します。

バッテリー液量：基準線（上および下）の間
バッテリー液：蒸留水

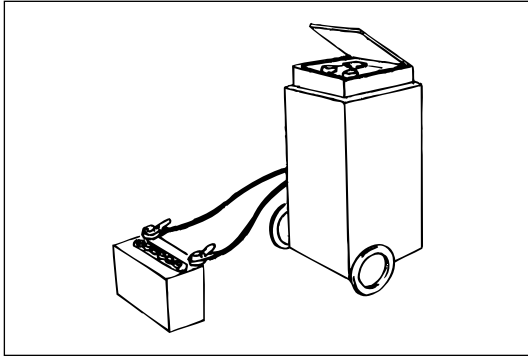
充電

⚠ 注意

- バッテリーは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。
- バッテリーにコードを接続するときは、+と-を間違えないようにしてください。一度でも間違えるとヒューズが飛び、バッテリーが充電できなくなります。
- バッテリーからコードを外すときは-側、取付けるときは+側から行ってください。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。
- バッテリーを取外し、再度取付けるときにはバッテリーの+、-のコードを元どおりに配線し、周りに接触しないように締め付けてください。

注 記

急速充電法は、短時間で放電量の幾分かを補うために大電流で充電する方法です。この方法は応急的処置として行うものです。作業が終わったらなるべく早く、正しく補充電をしておいてください。補充電をしておかないと、バッテリーの寿命は極端に短くなります。



1. バッテリーを取外します。
2. バッテリーの+と充電器の+、バッテリーの-と充電器の-をそれぞれ接続して充電します。（使用する充電器の「取扱説明書」の指示に従ってください。）

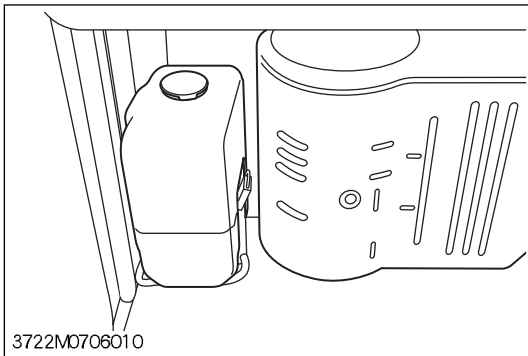
7.6.2 ウィンドウォッシャー液

点検／補給

注 記

タンク内が空になるとホースおよびポンプ内に空気が入り、ウォッシャー液が噴出しなくなり、ポンプ故障の原因となるおそれがあります。常に自動車用ウィンドウォッシャー液を過不足なく補給してください。また、自動車用ウィンドウォッシャー液以外は給水しないでください。故障の原因となります。

1. ウォッシャー液の量を目視点検し、必要な場合はウォッシャー液を補給します。



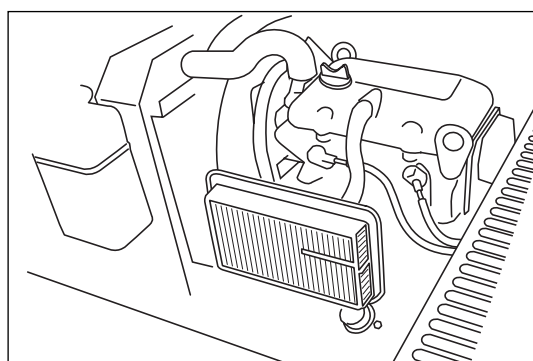
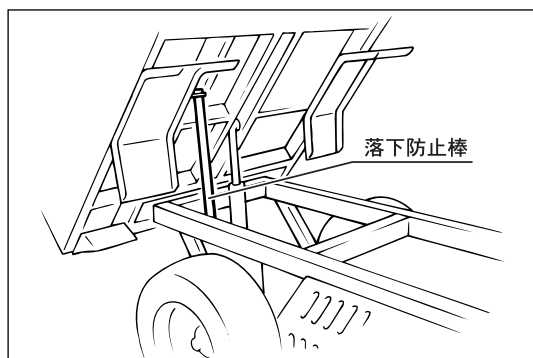
3722M0706010

7.7 清掃

7.7.1 エアクリーナエレメント

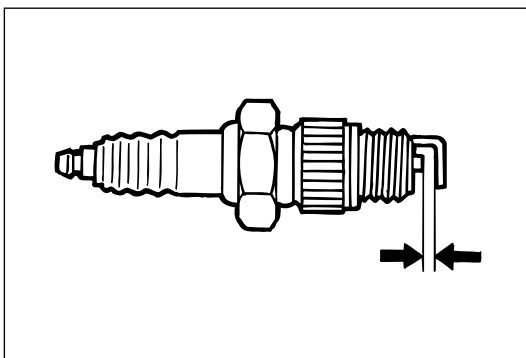
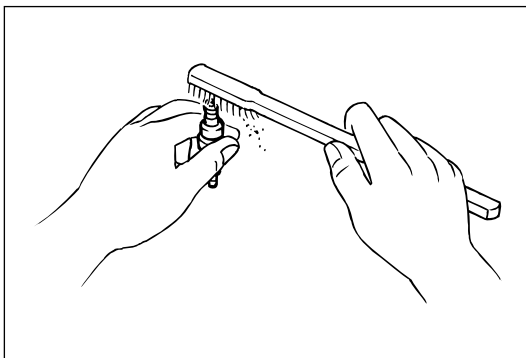
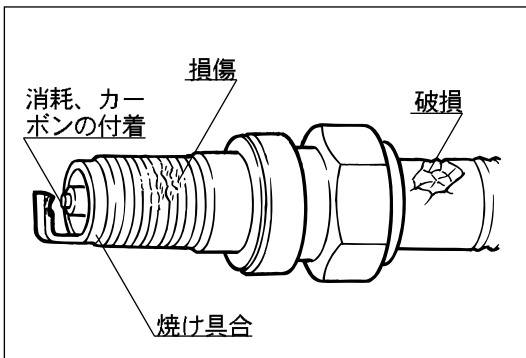
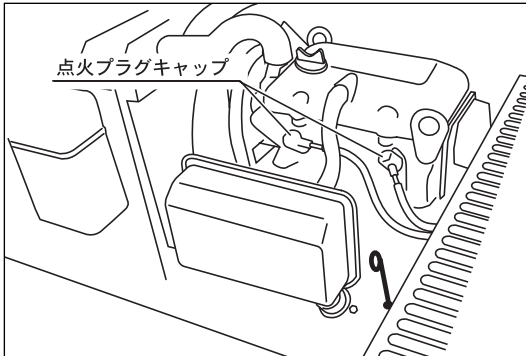
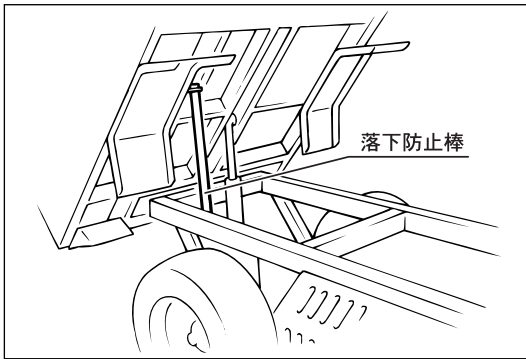
注 記

- エアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、エンジンの寿命低下を引起こすため、定期的（50時間運転毎）に清掃するよう心掛けてください。
- エアクリーナエレメントはエンジンの種類によって乾式、半湿式、オイルバス式などのタイプがあります。清掃方法は各タイプで異なりますので、付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、正しく清掃を行ってください。



清掃／交換

1. 荷台を上昇させます。（☞22ページ）
2. 荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。
3. エンジンを停止します。
4. エアクリーナカバーを取外します。
5. エアクリーナエレメントを取外します。
6. 付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、エアクリーナエレメントを清掃します。



7.7.2 点火プラグ

点検

1. 荷台を上昇させます。(☞22ページ)
2. 荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。
3. エンジンを停止します。(☞20ページ)
4. 点火プラグキャップを取外します。

注 記

点火プラグキャップを取外すときは、コードを引っ張らず、必ずキャップを持って取外してください。

5. プラグレンチを使用して点火プラグを取外します。
6. 次の点検を行い、不具合があれば清掃または交換します。(点火プラグの仕様：☞12ページ)
 - 絶縁体破損の有無
 - 電極の消耗状況
 - カーボンの堆積
 - ガスケットの損傷、破損
 - 火花部碍子の焼け具合

清掃

1. ワイヤ・ブラシ、プラグ・クリーナで点火プラグを清掃します。
2. 電極（火花）すき間が下記の値になるように、紙ヤスリで磨いてすき間を調整します。

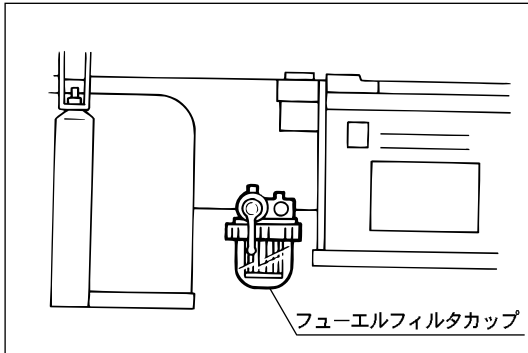
標準値： 0.7 mm

3. 点火プラグを取付けます。

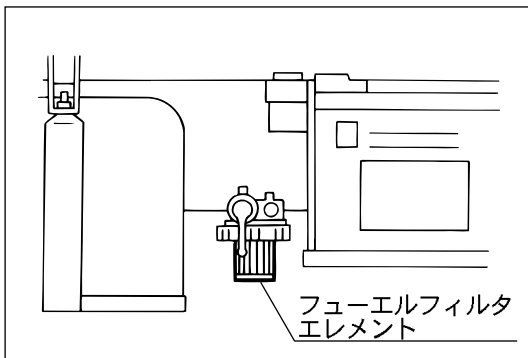
7.7.3 フューエルコック（フューエルフィルタ）

清掃

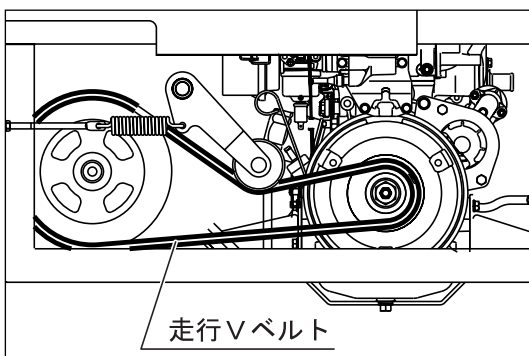
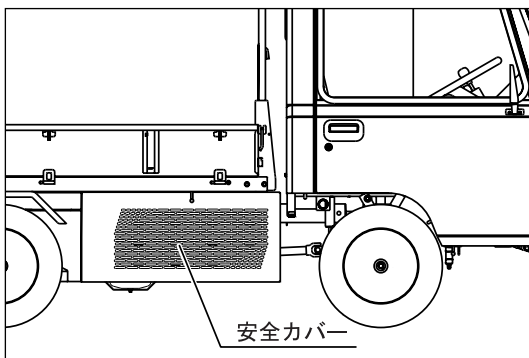
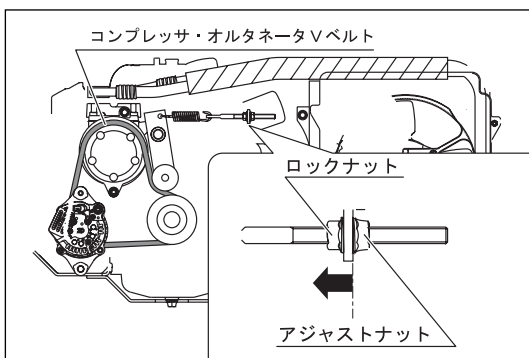
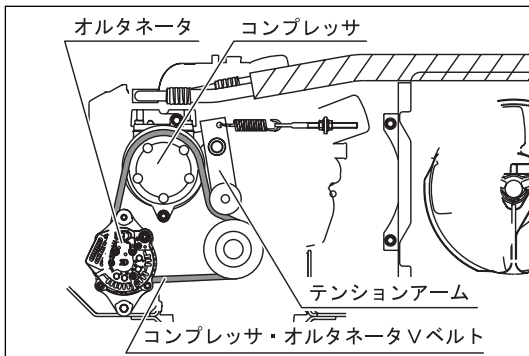
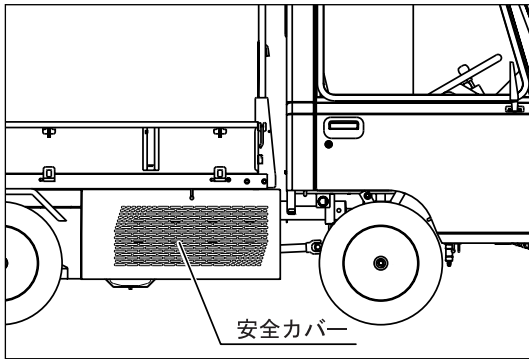
1. エンジンを停止します。（☞22ページ）
2. フューエルコックを閉じます。



3. フューエルフィルタカップを取外します。
4. フューエルフィルタカップの底にたまっている沈殿物（ゴミや水等）を除去します。



5. フューエルフィルタエレメントを下方にゆっくりと引っ張り、取外します。
6. フューエルフィルタエレメントを新しいガソリンで洗浄します。



7.8 調整

7.8.1 コンプレッサ・オルタネータVベルト（J153S）

点検

1. 安全カバーを取外します。
2. オルタネータベルトを指で押し上げ、ベルトの張りを点検します。

たわみ量：5～10mm

3. たわみ量が上記の基準値内でない場合は、ロックナットを緩めた後、アジャストナットを矢印の方へ締め付け、テンションアームにてベルトを張って調整してください。

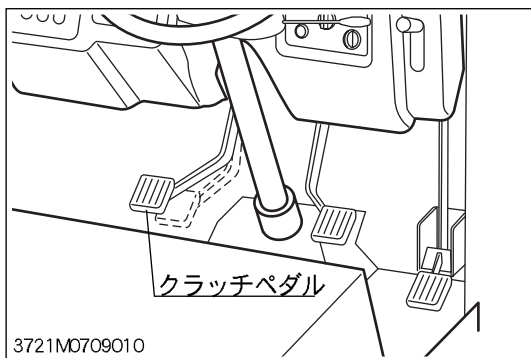
7.8.2 Vベルト

点検

1. 安全カバーを取外します。
2. Vベルトに損傷がないか目視点検します。損傷がある場合は交換します。

交換

販売店へ依頼してください。

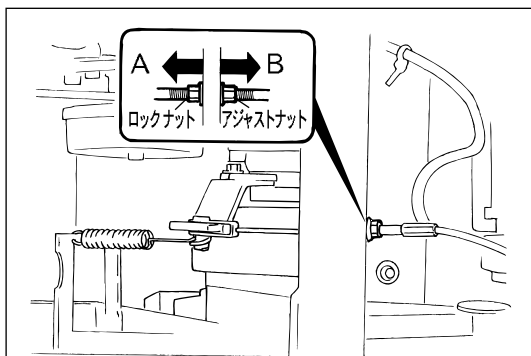


7.8.3 クラッチ

クラッチペダルの遊び

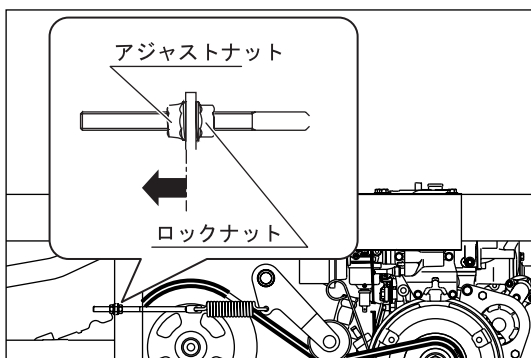
クラッチペダルは、クラッチ「入」（踏まない）の状態では、ペダルの先端での遊びが約30～40mm程度にセットされていますが、長期の使用で遊びが少なくなってきたら、クラッチワイヤのロックナットを緩めた後、アジャストナットで調整してください。

- ・クラッチペダルの遊びが少ない場合
アジャストナットをBの方向へ
- ・クラッチペダルの遊びが多い場合
アジャストナットをAの方向へ



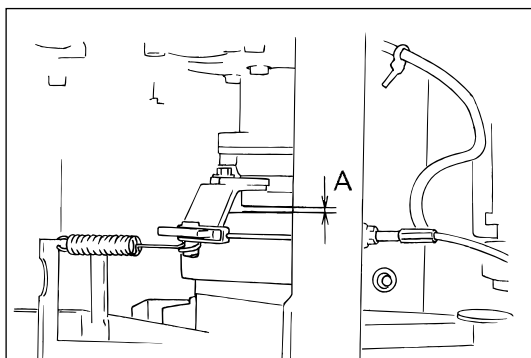
注 記

遊びを設けすぎるとクラッチの切れの不良の原因となります。



Vベルトの滑り

ロックナットを緩めた後、アジャストナットを矢印の方向へ締めて、テンションアームにてベルトを張ってください。



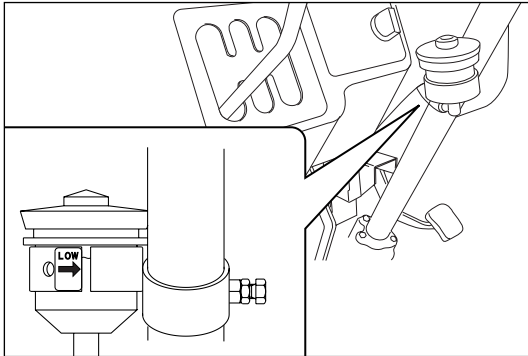
クラッチの滑り

クラッチ板が摩耗して左図のすきまAがなくなり、クラッチが滑る場合は、クラッチ板の交換が必要です。（販売店へ依頼してください。）

7.8.4 ブレーキ

注 記

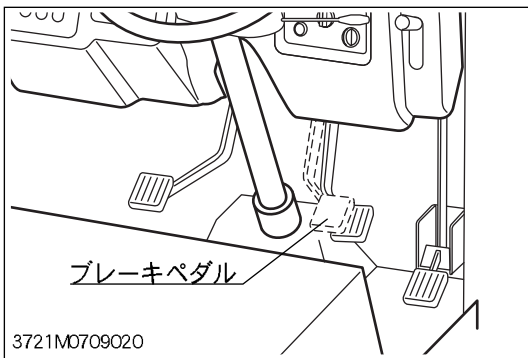
最も重要な点検・整備箇所にブレーキがあります。日常より下記のような点検を行い、常に安全を心がけるようにしてください。
片効きしたり、少しでも効きが甘くなったりするような場合は直ちに販売店で点検・整備を行って下さい。

**ブレーキオイル**

ブレーキオイルタンクの油量が「LOW(下限)」以上入っていることを確認して下さい。

注 記

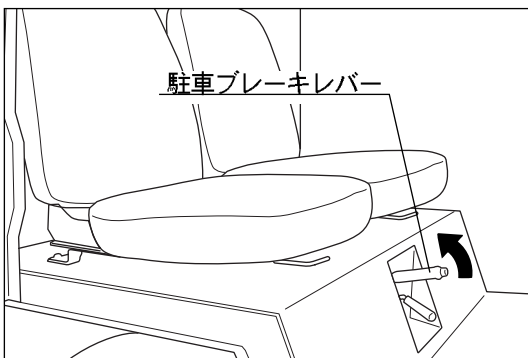
油量が下限以下の場合は、油圧回路の異常が考えられますので、販売店で点検整備を行ってください。

**ブレーキペダルの遊び**

ペダルを軽く押したとき遊びが先端で0～10mmになる事を確認して下さい。

注 記

遊びが大きすぎる場合は、油圧回路の異常が考えられますので、販売店で点検整備を行ってください。

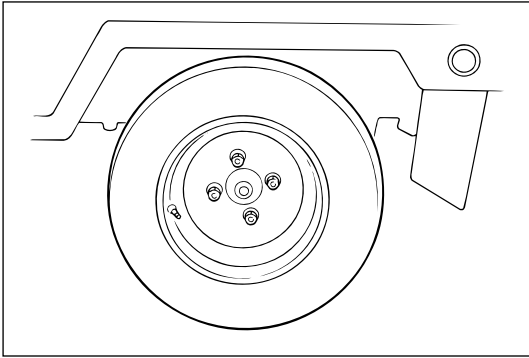
**駐車ブレーキの調整**

駐車ブレーキレバーを引いて、駐車ブレーキレバーのロックがおよそ4～6ノッチで止まる事を確認して下さい。

注 記

ブレーキを調整後に、駐車ブレーキを解除して、変速を「N」の状態、車体を押して動くことを確認して下さい。

引きしろが多すぎる場合は、調整の必要がありますので、販売店で点検・整備を行ってください。



7.8.5 タイヤの空気圧

前輪および後輪のタイヤの空気圧を点検し、標準値でない場合は調整します。

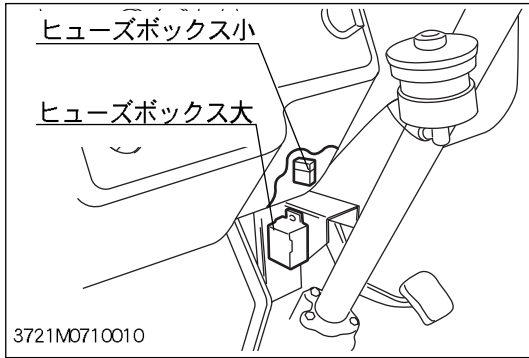
	タイヤ	空気圧 (kg/cm ²)
前 輪	22×8.50-12 (4PR)	2.2
後 輪	22×8.50-12 (4PR)	2.2

7.9 交換

注 記

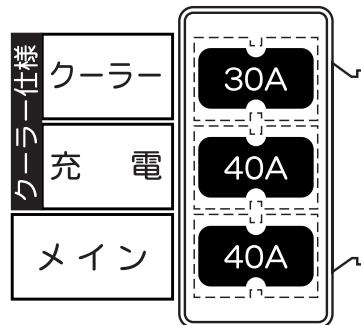
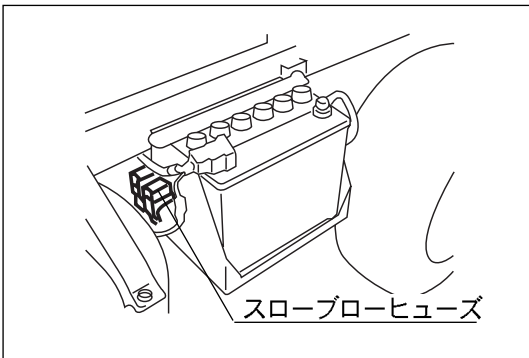
ヒューズの交換の際は、必ず同じ負荷容量のものと交換してください。

7.9.1 メインヒューズ

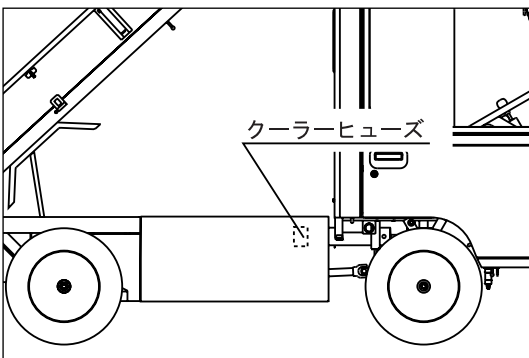


ヒューズボックス/小	
ルームランプ用電源	5A
ヒューズボックス/大	
ラジオ・予備電源	10A
ホーン・アワメータ フューエルポンプ	10A
J111S (デフロスタ)・J150S 電動ファン	10A
ライト・テールランプ メータパネル (イルミ)	15A
ターニングランプ メータパネル (警告類) 燃料計・バックアップランプ	10A
ワイパモータ ウォッシュポンプ	15A

7.9.2 スローブローヒューズ



7.9.3 クーラーヒューズ (J153Sのみ)



予備ヒューズ	10A	クーラー用操作電源	10A
	10A	クーラー用 プロアモーター	10A
	10A	コンデンサ ファン用リレー	10A

7.10 使用後のお手入れ

（通常時の使用後のお手入れ）

- ・ 使用後は車体に付着した泥や異物を取除いてください。エンジンや操作盤および各種給油口の水洗いは水の浸入や錆付きの原因になるため避けてください。
- ・ 機体を洗う場合は高圧洗車を避けてください。
- ・ 屋外に放置するときは、防水シート等を掛けておいてください。

（寒冷期の使用後のお手入れ）

- ・ 使用後必ず車体に付着した泥や異物を取除いて、コンクリートか固い乾燥した地面上または角材の上に駐車してください。付着物は凍結して故障の原因となります。
- ・ 屋外に放置するときは、防水シート等を掛けておいてください。

注 記

凍結して運転不能となった場合は無理に動かそうとせずに、凍結箇所を水・お湯等で解かすか、凍結が解けるまで待ってください。

8. 格納（長期保管）

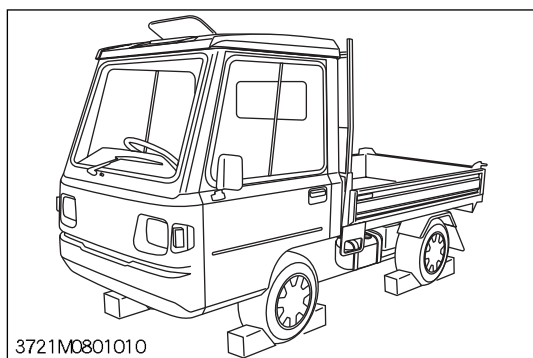
長期保管する場合は、次の使用時に備えて適切な処置をしておく必要があります。長期保管をする際は、使用後のお手入れ（☞50ページ）をした後、以下の指示に従ってください。

⚠ 危険

火気のある場所および高温な場所に本機およびバッテリー、燃料等を格納しないでください。火災の原因となり危険です。

注 記

湿気やほこりの多い場所での本機の格納は避け、格納時にはエンジンが冷えてから、防水シートを本機にかけておいてください。



8.1 本機（車両）

1. 外面を油のしみた布で清掃し、回転摺動部は注油します。
2. 駐車ブレーキレバーを引かずに、輪止めをします。
3. エンジンキーを抜きます。

8.2 バッテリー

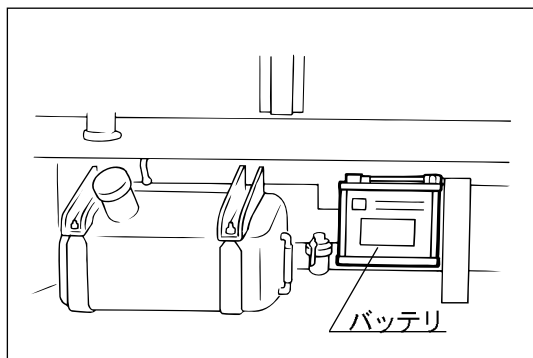
⚠ 注意

バッテリー線を外す場合はマイナス（-）を先にプラス（+）を後で外し、接続する場合はプラス（+）を先にマイナス（-）を後で接続します。

1. 本体（車両）からバッテリーを取外します。
2. バッテリー液の量を確認し、必要な場合は補充します。（☞41ページ）
3. 低温で乾燥した場所に保管します。

参考：

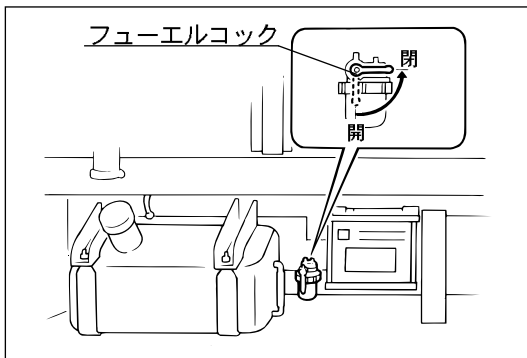
バッテリーは使用しなくとも約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電すると、バッテリーを長持ちさせることができます。



8.3 エンジン

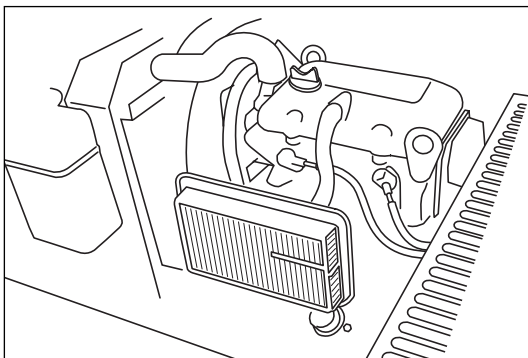
注 記

- 気化器内へ燃料を入れたまま長期間放置すると燃料が劣化し、始動不良および回轉變動が生じますので、長期保管する場合は気化器内および燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。また長期間放置した燃料はなるべく使用しないでください。
- エンジン長期保管の詳細については、付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。



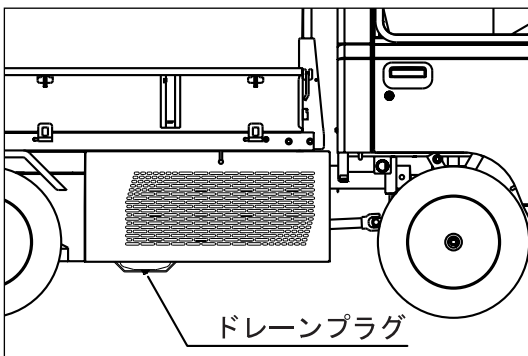
8.3.1 フューエルコック

1. フューエルコックを「閉」の位置にして燃料の供給を停止します。



8.3.2 エアクリーナエレメントの清掃

1. エアクリーナエレメントを外し、確実に清掃します。(☞43ページ)



8.3.3 エンジンオイルの交換

1. エンジンオイルを抜取り、新しいエンジンオイルと交換します。(☞36ページ)

9. 不具合発生時の処置

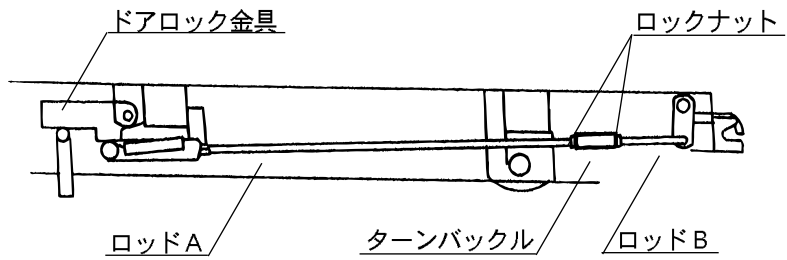
- 不具合と考えられる現象が起きた場合は、本機の使用を停止し、下記の「不具合診断表」を参照して適切な処置をしてください。「不具合診断表」に掲載されていない不具合が発生した場合や適切な処置を行っても不具合が解消されない場合は、販売店または当社各センターまで連絡してください。
- 処置については、専門的な整備知識を必要とするものもありますので、整備が難しいものについては、販売店または当社センターに依頼してください。

9.1 不具合診断表

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
エンジン 関連	エンジンがかからない またはかかりにくい	<ul style="list-style-type: none"> • 燃料不足 • 燃料の吸い込みすぎ • バッテリーの容量不足 (セルモータの起動不良) • ヒューズ切れ • 電気配線の接触不良または断線 • エンジンオイルの不足または品質不良 • 点火プラグの汚れまたは火花の飛び不足による着火不良 • その他 (上記以外) 	<ul style="list-style-type: none"> →補給する (☞14ページ) →時間をおいて始動する →バッテリー液を補給する (☞41ページ) →バッテリーを充電する (販売店へ依頼してください) →バッテリーを交換する →交換する (☞49ページ) →修理する (販売店へ依頼してください) →補給または交換する (☞36ページ) →清掃または交換する (☞44ページ) →本書の第6章6.2項「始動のしかた」の手順に従って再度始動を試み、始動不可能の場合は販売店へ修理を依頼してください。
	すぐにエンストする	<ul style="list-style-type: none"> • フューエルコックが開いていない • 燃料不足 • チョークの戻し忘れ 	<ul style="list-style-type: none"> →フューエルコックを開く (☞14ページ) →補給する (☞14ページ) →チョークを戻す
	エンジンが突然停止した	<ul style="list-style-type: none"> • 燃料切れ • エンジンオイル不足またはオイル劣化による焼き付き 	<ul style="list-style-type: none"> →補給する (☞14ページ) →点検および補給する (☞36ページ)

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処 置
エンジン 関連	アイドリング不良 (エンジン回転にムラがある)	—————	→販売店へお問い合わせください
	出力または加速不足	<ul style="list-style-type: none"> • Vベルトの緩み • アクセルの調整不良 • 過積載 	→調整する →販売店へお問い合わせください →積み荷を減らす
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする	<ul style="list-style-type: none"> • エンジンマウントの劣化 • その他 	→交換する（販売店へ依頼してください） →販売店へお問い合わせください
	エンジンオイルの消費が早い	<ul style="list-style-type: none"> • エンジンオイルの漏れ 	→点検および修理する
	エンジンのオーバーヒート	<ul style="list-style-type: none"> • エンジンオイルの不足 • エンジン冷却水の不足 	→補給する（☞36ページ） →補給する
	燃料の消費が早い	<ul style="list-style-type: none"> • 燃料系統からの燃料漏れ • エアクリーナの目詰まり 	→点検および修理する（販売店へ依頼してください） →清掃または交換する（☞43ページ）
	黒煙が多量に出る (排気状態の不良)	<ul style="list-style-type: none"> • 圧縮不良 • エアクリーナの目詰まり • チョークの戻し忘れ 	→点検および修理する（販売店へ依頼してください） →清掃または交換する（☞43ページ） →チョークを戻す
	白煙または青煙が出る (排気状態の不良)	<ul style="list-style-type: none"> • エンジンオイルが入り過ぎている • 燃料不良 • シリンダ、ピストンリングの摩耗 	→点検後、オイル量を調整する（☞36ページ） →燃料を交換する →点検および修理する（販売店へ依頼してください）
	アクセルレバーまたはペダルが引っ掛かる	<ul style="list-style-type: none"> • アクセルワイヤの折れ、錆付き 	→交換する（販売店へ依頼してください）

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処 置
動力伝達 装置関連	クラッチをつないでも車が動かない	<ul style="list-style-type: none"> ● 確実に変速（シフト）していない ● ブレーキが効いている ● Vベルトが外れている、緩みすぎている ● トランスミッションの故障 	→ 確実に変速（シフト）する → ブレーキの解除 → Vベルトをかける、または調整（販売店に依頼してください） → 販売店に連絡してください
	クラッチの切れが悪い	<ul style="list-style-type: none"> ● 調整不良 	→ 調整する（☞47ページ）
	Vベルトが滑る	<ul style="list-style-type: none"> ● 調整不良 	→ 調整する（☞47ページ）
	クラッチペダルの遊びが過大または過小	<ul style="list-style-type: none"> ● 調整不良 	→ 調整する（☞47ページ）
	トランスミッション付近から異音がる	<ul style="list-style-type: none"> ● ギヤの損傷、ベアリングの摩耗 	→ 販売店へお問い合わせください
	変速できない	<ul style="list-style-type: none"> ● クラッチの調整不良 ● ギヤの損傷、ベアリングの摩耗 	→ 調整する（☞47ページ） → 販売店へお問い合わせください
	ギヤ抜けする	<ul style="list-style-type: none"> ● 確実に変速（シフト）していない ● ギヤの摩耗 ● 過積載 	→ 確実に変速（シフト）する → 販売店へお問い合わせください → 積み荷を減らす
制動装置 関 連	効きが悪いまたは片効きする	<ul style="list-style-type: none"> ● ブレーキライニングの摩耗 ● ブレーキドラム内にオイルが浸入 ● ブレーキドラム内に水が浸入 ● タイヤの摩耗 ● 過積載 ● ブレーキラインの破損 	→ ライニングを交換する（販売店へ依頼してください） → オイルシールを交換する（販売店へ依頼してください） → 何回かブレーキをかけて中の水を乾かす → タイヤを交換する → 積み荷を減らす → 販売店へお問い合わせください

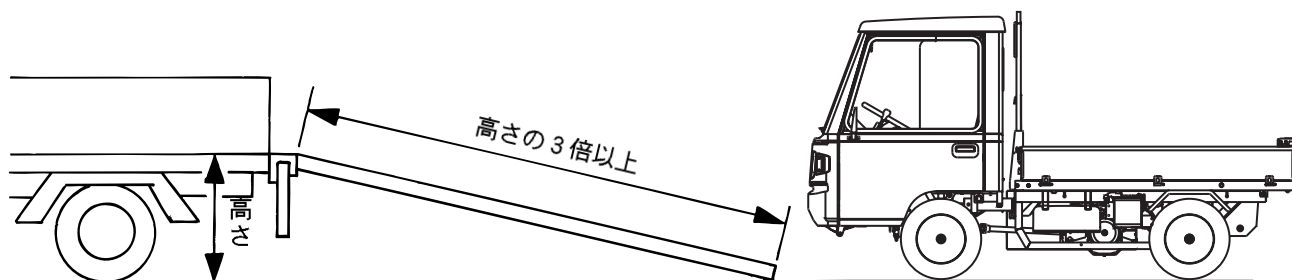
発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
制動装置 関連	ブレーキペダルの遊びが過大	<ul style="list-style-type: none"> 油圧回路の異常 	→販売店へお問い合わせください
	駐車ブレーキの効きが悪い	<ul style="list-style-type: none"> 調整不良 	→販売店へお問い合わせください
荷台 関連	後ドアの開閉不良	<ul style="list-style-type: none"> ドアロックの調整不良 	→ターンバックルを調整する (下記参照)
	 <p>The diagram illustrates the door lock mechanism. It shows a horizontal assembly with several components labeled: 'ドアロック金具' (Door lock assembly) at the top left, 'ロックナット' (Lock nut) at the top right, 'ロッドA' (Rod A) at the bottom left, 'ターンバックル' (Turnbuckle) at the bottom center, and 'ロッドB' (Rod B) at the bottom right. The rods are connected to the turnbuckle, which is used to adjust the door lock's operation.</p>		
ダンブ装置 関連	ダンブ装置が作動しない または作動不良	<ul style="list-style-type: none"> パワーパッケージのオイル不足または劣化 油圧系統からのオイル漏れ ベルトの張り不足 	→給油または交換する (☞39ページ) →点検および修理 →調整する (販売店へ依頼してください)
車体 関連	車体の異常振動	<ul style="list-style-type: none"> タイヤ空気圧 タイヤ取り付けボルトの緩み ホイールベアリングの破損 タイヤの亀裂 	→タイヤの空気圧を調整する (☞49ページ) →ボルトを締める →交換する (販売店へ依頼してください) →交換する (販売店へ依頼してください)
安全装置 関連	ライト、ランプの点灯不良	<ul style="list-style-type: none"> 配線不良 球切れ ヒューズ切れ 	→接続する →交換する →交換する (☞49ページ)

10. 本機の移送および本機での移送

10.1 本機の移送

本製品を自動車へ積降ろしする際は、下記の手順および注意事項を遵守してください。

1. アユミ板は、十分な強度（機械重量および運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（タイヤの2倍以上）、長さ（高さの3倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し、本機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。

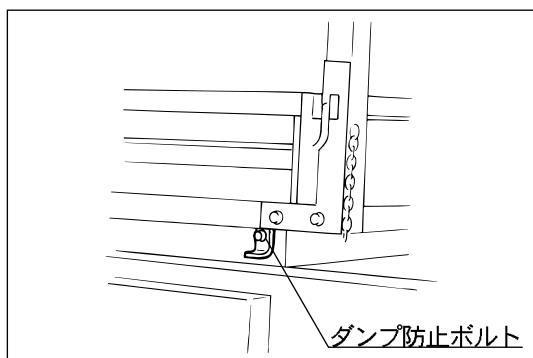


3721MI001010

2. アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

⚠ 危険

- 作業中は本機およびアユミ板の周辺には、人を近づけないようにしてください。
- 変速ギヤを前・後進とも1速にし、4駆レバーを「入」にして、ゆっくりと昇り降りしてください。
- アユミ板上での方向変換はいったん、地上に降りて行ってください。転落の危険があります。



10.2 本機での移送

注 記

本機に小型運搬車等を積み込んで移送する場合は、ダンプ防止ボルトを取付け、荷台を必ず固定してから作業をしてください。

11. 小型特殊自動車登録申請の手引き

この車の所有者となった方は、市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。（詳細な手続きは市町村役場窓口でお尋ねください）

※ J152S、J153Sともに申請車名・型式はチクスイJ150です。

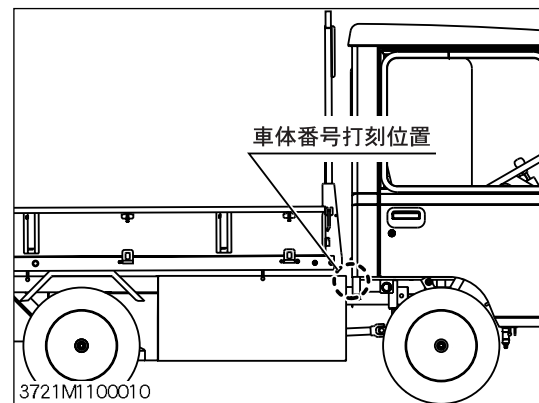
* 市町村役場の登録申請書記載事項

搭載エンジン 項 目	クボタ GZ460
種 別 用 途	小型特殊自動車
車 名	チクスイJ150
型 式	チクスイJ150
年 式	年式は購入された年を記入してください。
原 動 機 番 号	* エンジンの打刻を見て記入してください。
原動機総排気量	456 cc
車 台 番 号	* 車台番号については、キャビン右側後面に打刻してあります。
型式認定番号	特816
形 状	ホイールキャリア

原 動 機 番 号



車 台 番 号



※ 自賠責保険は加入が義務づけられています。

自動車損害賠償保障法によってすべての自動車は自賠責保険に加入しないと運行出来ない事になっていますので、必ず加入して頂く様お願い致します。